

問3 あなたが介護をする場合について

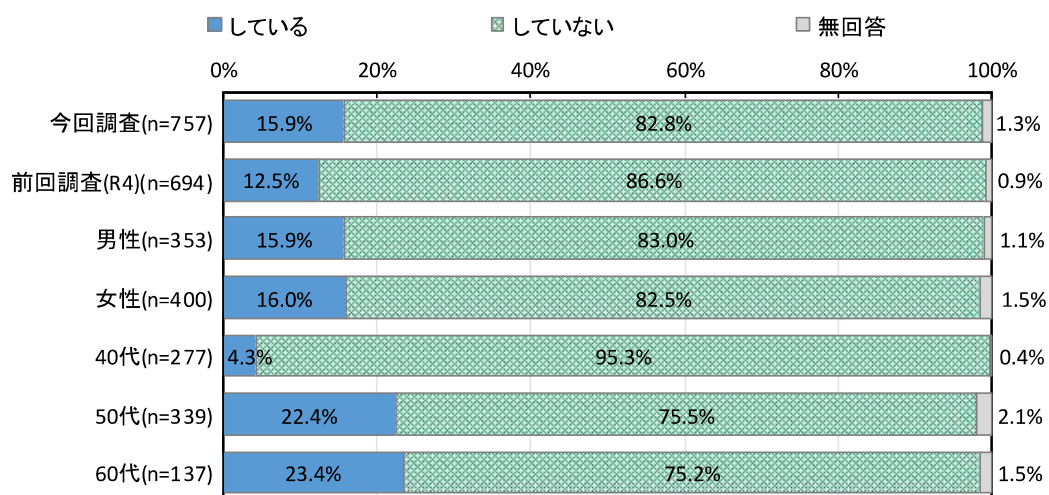
(1)現在、誰かの介護をしていますか。(1つを選択)※同居の有無に関わらず

全体では、「している」15.9%、「していない」82.8%となっている。

前回調査と比較して大きな差異はみられない。

男女別でみると、大きな差異はみられない。

年代別でみると、50代、60代ではいずれも「している」の割合が2割を占めている一方で、40代では4.3%にとどまっている。



【次の①～⑤は、(1)において「1. している」と回答した方のみ、ご回答ください。】

① 介護をしている相手はどなたですか。(複数選択可)

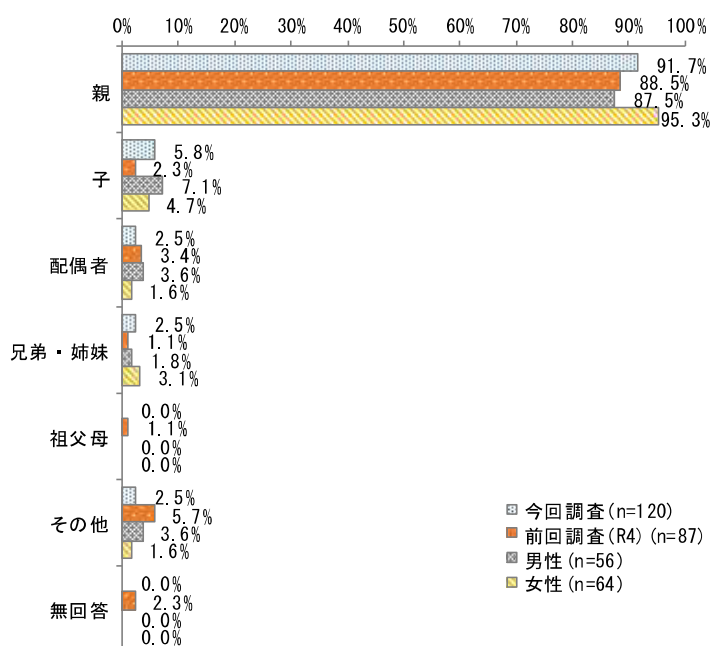
全体では、「親」91.7%が最も高く、次いで「子」5.8%、「配偶者」、「兄弟・姉妹」、「その他」がいずれも2.5%となっている。

前回調査と比較して大きな差異はみられない。

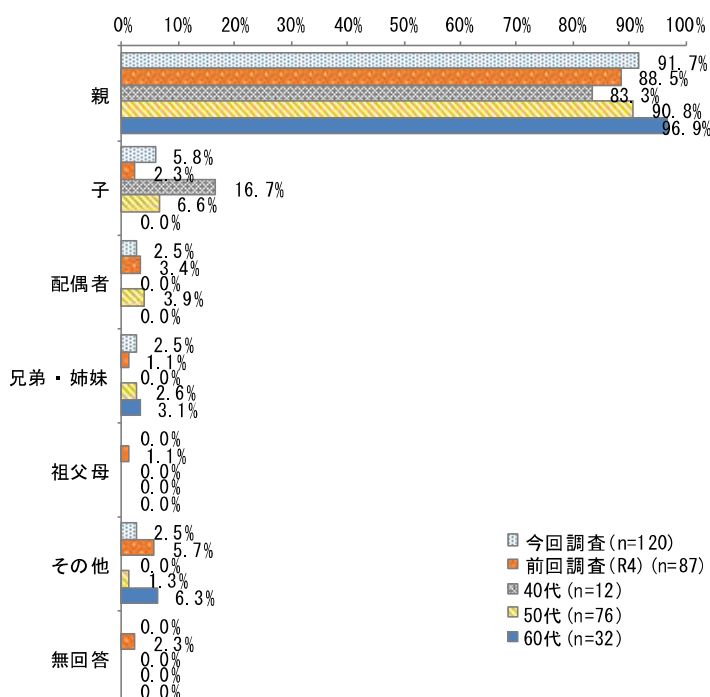
男女別でみると、「親」の割合は女性が男性を7.8ポイント上回る。

年代別でみると、「親」は年代が上がるにつれて割合が高くなり、60代では96.9%を占めている。また、「子」は40代が16.7%と他の年代より高くなっている。

【介護をしている相手（男女別）】



【介護をしている相手（年代別）】



【次の①～⑤は、(1)において「1. している」と回答した方のみ、ご回答ください。】

② 介護をしている相手は介護保険サービスを利用していますか。(複数選択可)

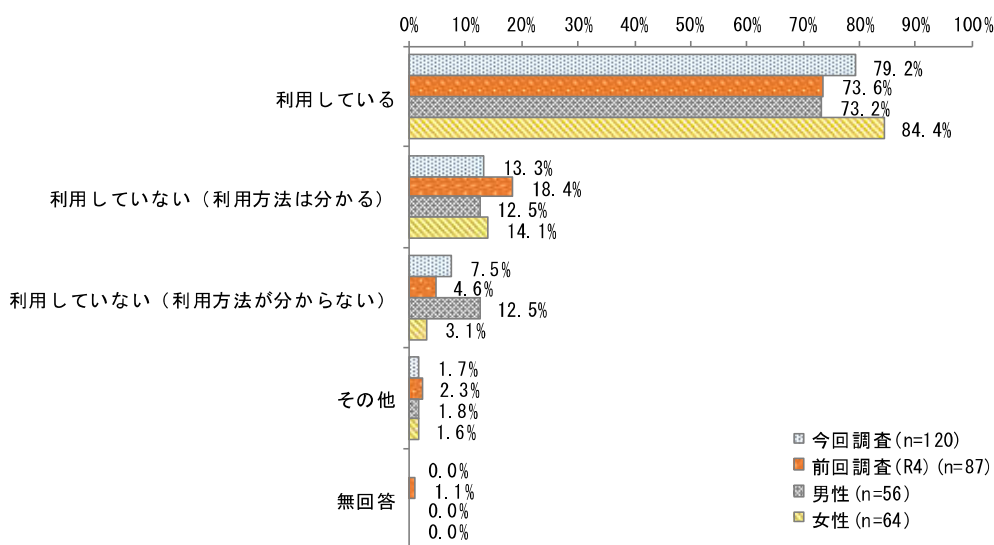
全体では、「利用している」79.2%が最も高く、次いで「利用していない(利用方法は分かる)」13.3%、「利用していない(利用方法が分からない)」7.5%となっている。

前回調査と比較すると、「利用していない(利用方法は分かる)」は5.1ポイント減少した一方で、「利用している」は5.6ポイント増加している。

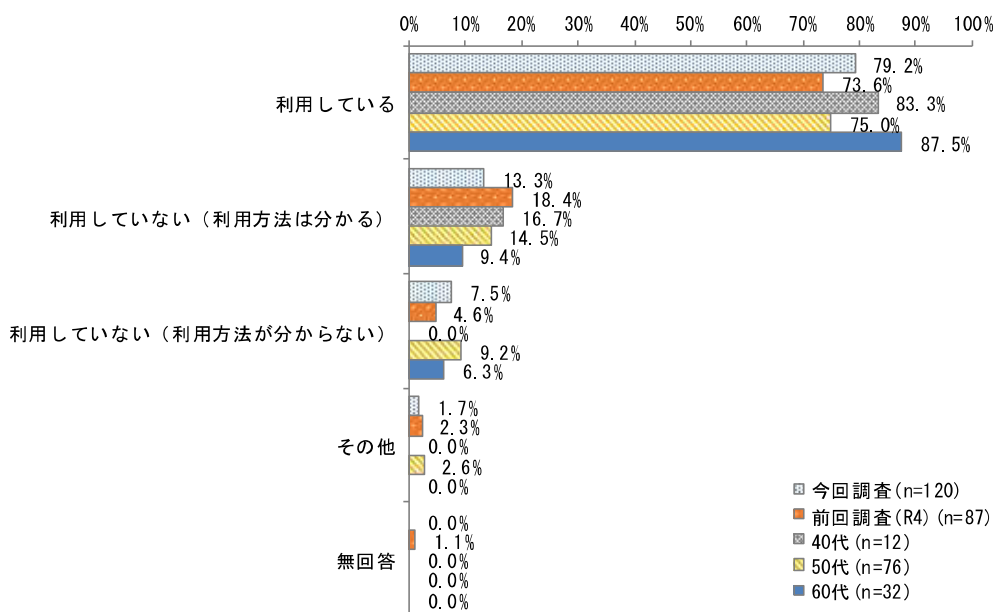
男女別でみると、「利用している」の割合は女性が男性を11.2ポイント上回る。一方で、「利用していない(利用方法が分からない)」は男性が女性より9.4ポイント高くなっている。

年代別でみると、全ての年代で「利用している」の割合は最も高く、40代、60代では8割以上を占めている。

【介護をしている相手は介護保険サービスを利用しているか(男女別)】



【介護をしている相手は介護保険サービスを利用しているか(年代別)】



【次の①～⑤は、(1)において「1. している」と回答した方のみ、ご回答ください。】

③ 今後の介護のことについて誰に相談していますか。(複数選択可)

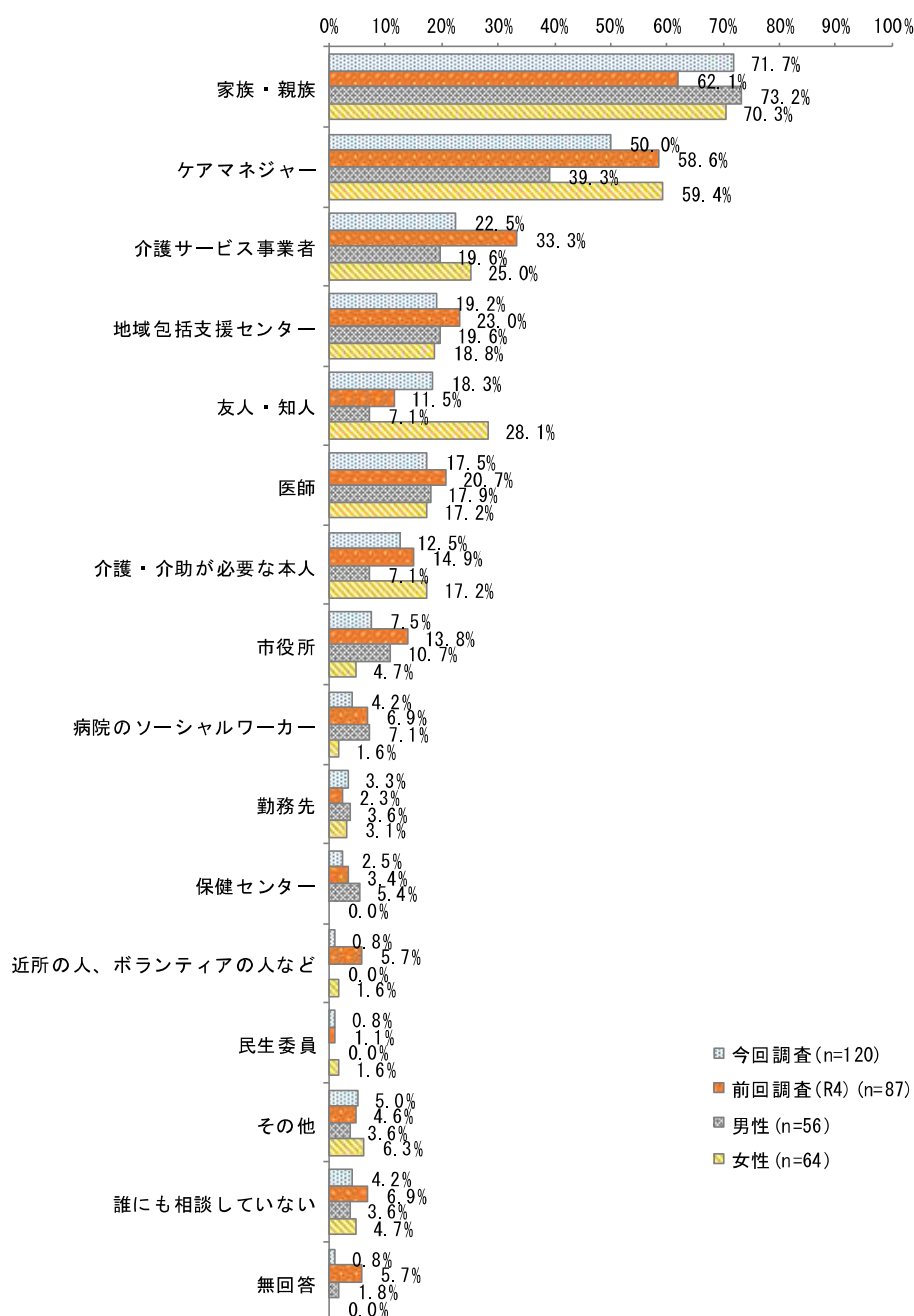
全体では、「家族・親族」71.7%が最も高く、次いで「ケアマネジャー」50.0%、「介護サービス事業者」22.5%となっている。

前回調査と比較すると、多くの項目で割合が減少している一方で、「家族・親族」では9.6ポイント、「友人・知人」では6.8ポイント増加している。

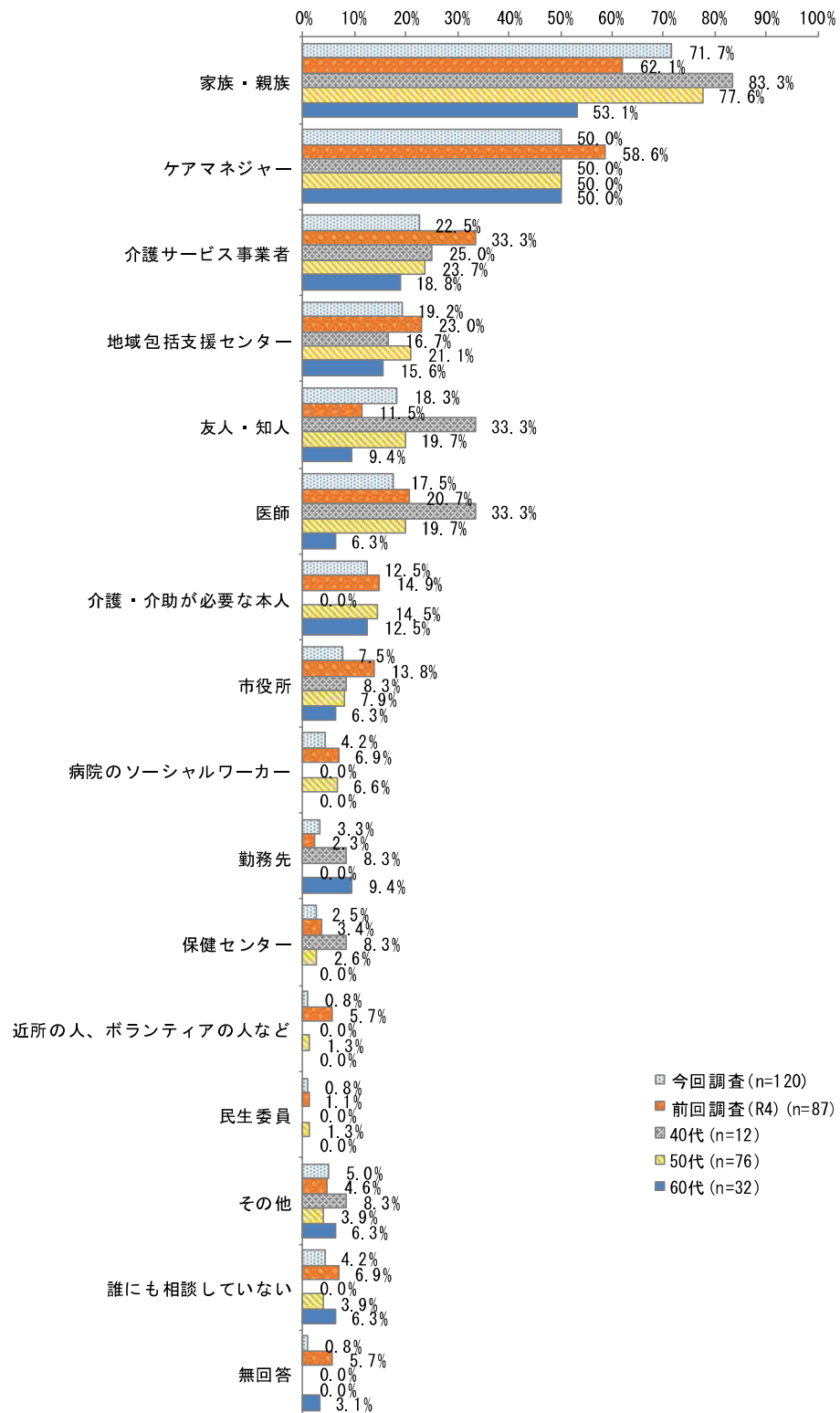
男女別でみると、「介護・介助が必要な本人」では10.1ポイント、「友人・知人」21.0ポイント、「ケアマネジャー」では20.1ポイント女性が男性より高くなっている。

年代別でみると、全ての年代で「家族・親族」の割合が最も高く、次いで「ケアマネジャー」となっている。40代では「友人・知人」、「医師」がいずれも他の年代より高くなっている。

【介護に関する相談相手（男女別）】



【介護に関する相談相手（年代別）】



【次の①～⑤は、(1)において「1. している」と回答した方のみ、ご回答ください。】

④ 現在、介護をしているなかで、負担に感じていることは何ですか。(複数選択可)

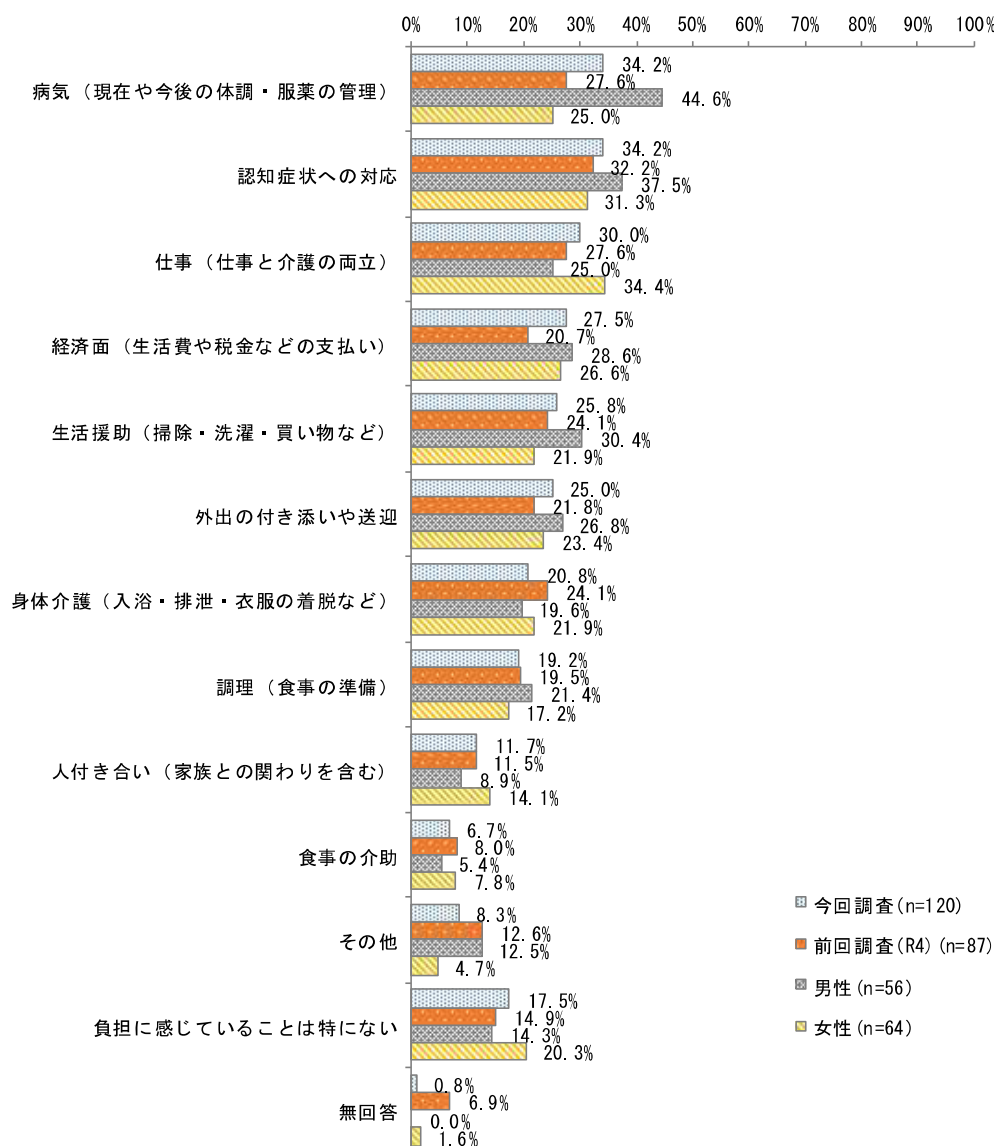
全体では、「病気（現在や今後の体調・服薬の管理）」、「認知症状への対応」がいずれも 34.2%と最も高く、次いで「仕事（仕事と介護の両立）」30.0%、「経済面（生活費や税金などの支払い）」27.5%となっている。

前回調査と比較すると、「病気（現在や今後の体調・服薬の管理）」では 6.6 ポイント、「経済面（生活費や税金などの支払い）」では 6.8 ポイント増加している。

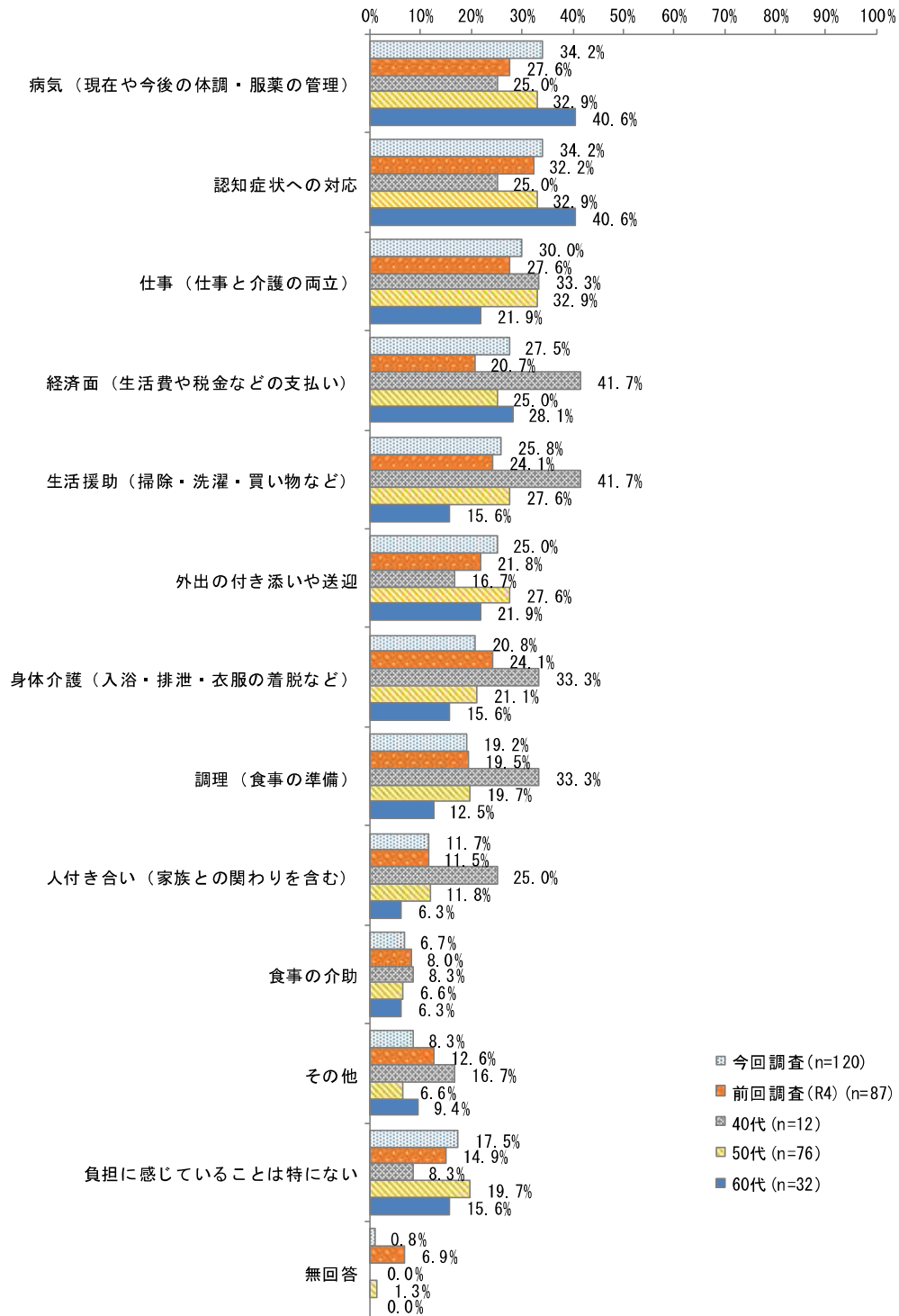
男女別でみると、「認知症状への対応」では 6.2 ポイント、「生活援助（掃除・洗濯・買い物など）」では 8.5 ポイント、「その他」では 7.8 ポイント、「病気（現在や今後の体調・服薬の管理）」では 19.6 ポイント男性が女性を上回る。一方で、「仕事（仕事と介護の両立）」では 9.4 ポイント、「負担に感じていることは特にない」では 6.2 ポイント女性が男性より高くなっている。

年代別でみると、40 代では「生活援助（掃除・洗濯・買い物など）」、「経済面（生活費や税金などの支払い）」、50 代、60 代では「病気（現在や今後の体調・服薬の管理）」、「認知症状への対応」の割合が最も高くなっている。

【介護で負担に感じること（男女別）】



【介護で負担に感じること（年代別）】



【次の①～⑤は、(1)において「1. している」と回答した方のみ、ご回答ください。】

⑤ 介護をするに当たって、働き方について何か調整などを行っていますか。(1つを選択)

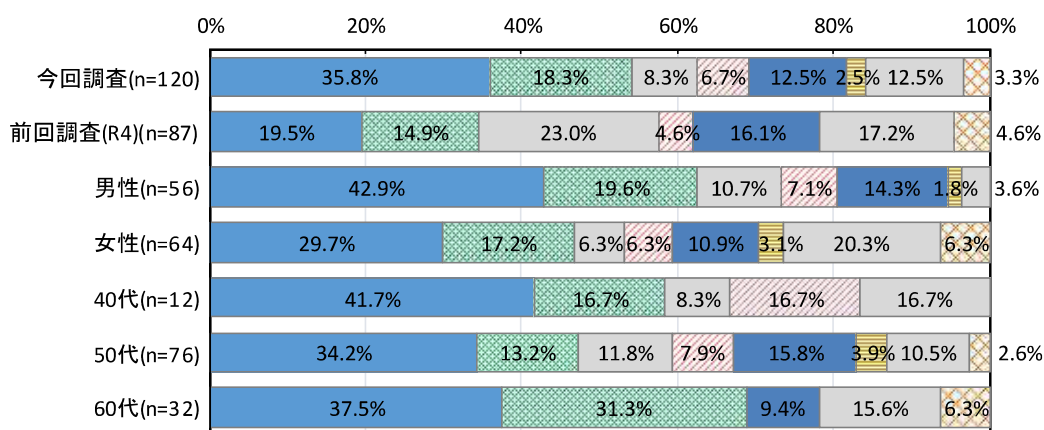
全体では、「特に行っていない」35.8%が最も高く、次いで「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜けなど）」しながら、働いている」18.3%、「介護のために、上記以外の調整をしながら、働いている」、「働いていない」がいずれも12.5%となっている。

前回調査と比較すると、「介護のために、「休暇（有休や介護休暇など）」を取りながら、働いている」は14.7ポイント減少した一方で、「特に行っていない」は16.3ポイント増加している。

男女別でみると、「特に行っていない」また、就業を継続している人では男性が女性を上回っている。「介護のために、休職している」、「働いていない」、「介護のために退職をした」ではいずれも女性が男性より高く、特に「働いていない」では16.7ポイントの差がみられる。

年代別でみると、60代では「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜けなど）」しながら、働いている」の割合が31.3%と他の年代より高くなっている。

- 特に行っていない
- 介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜けなど）」しながら、働いている
- 介護のために、「休暇（有休や介護休暇など）」を取りながら、働いている
- 介護のために、「在宅勤務」を利用しながら、働いている
- 介護のために、上記以外の調整をしながら、働いている
- 介護のために、休職している
- 働いていない
- 介護のために退職をした
- 無回答



(2)あなたが介護をする側になった場合、この先の介護について不安に思うことは何ですか。
(複数選択可)

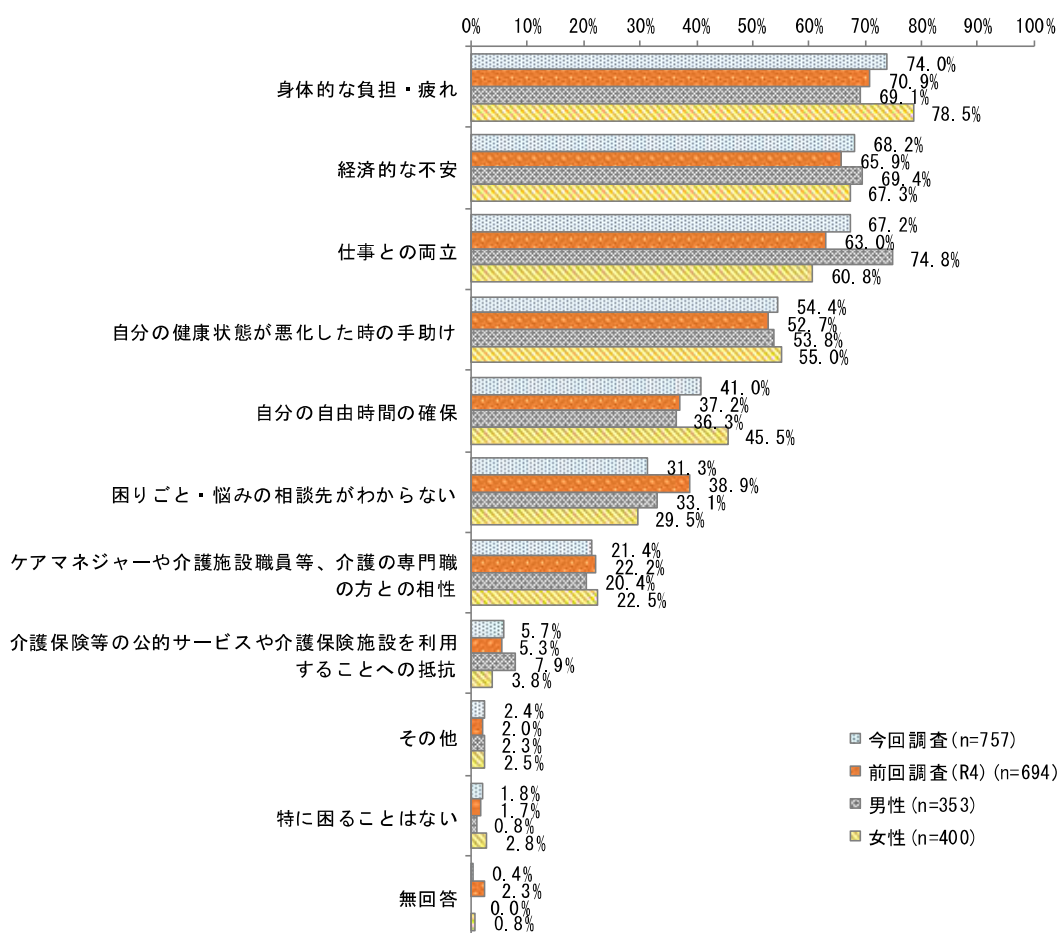
全体では、「身体的な負担・疲れ」74.0%が最も高く、次いで「経済的な不安」68.2%、「仕事との両立」67.2%となっている。

前回調査と比較すると、「困りごと・悩みの相談先がわからない」は7.6ポイント減少している。

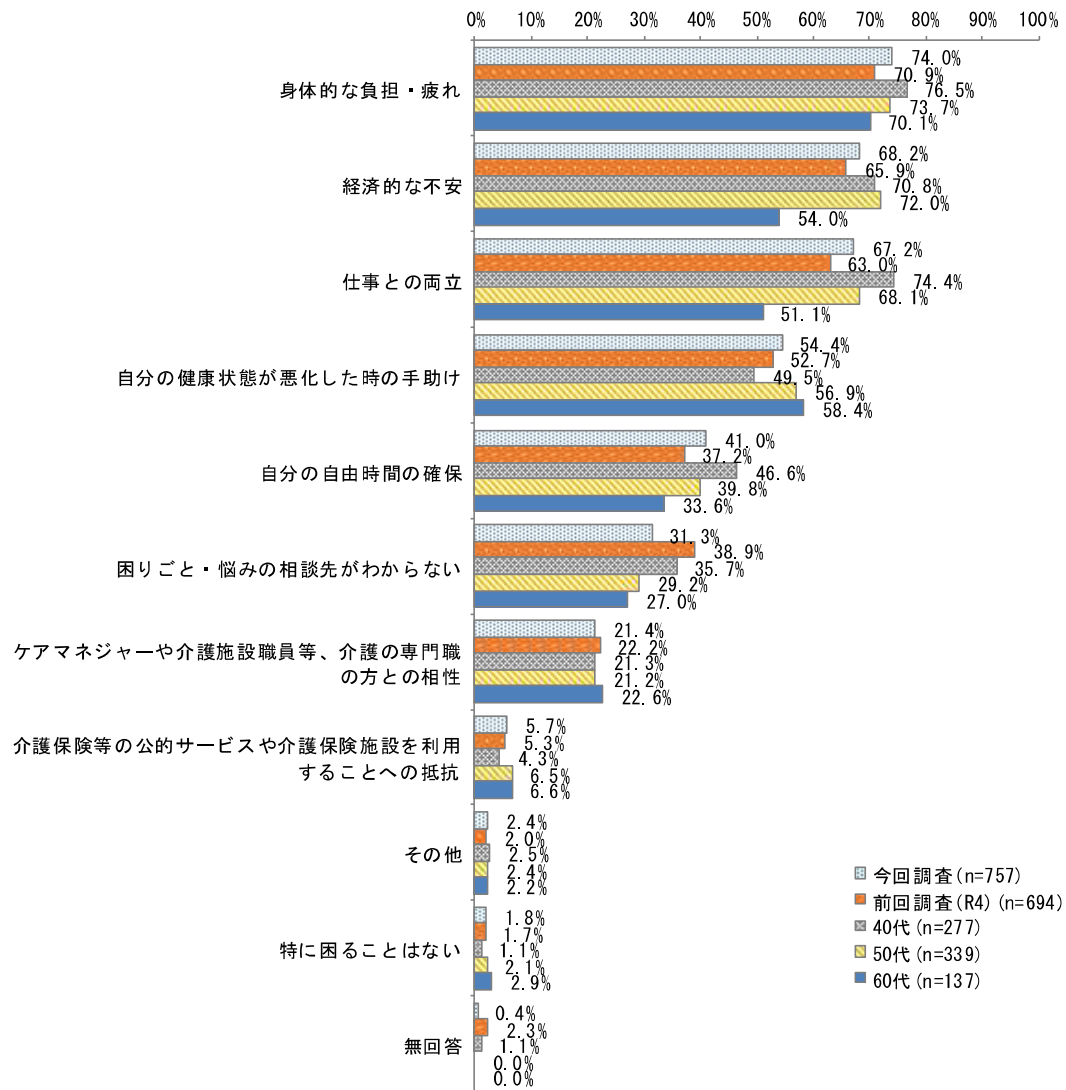
男女別でみると、「仕事との両立」の割合は男性が女性を14.0ポイント上回る。一方で、「身体的な負担・疲れ」では9.4ポイント、「自分の自由時間の確保」では9.2ポイント女性が男性より高くなっている。

年代別でみると、全ての年代で「身体的な負担・疲れ」の割合が最も高く、次いで40代では「仕事との両立」、50代では「経済的な不安」、60代では「自分の健康状態が悪化した時の手助け」となっている。

【この先の介護で不安に思うこと（男女別）】



【この先の介護で不安に思うこと（年代別）】



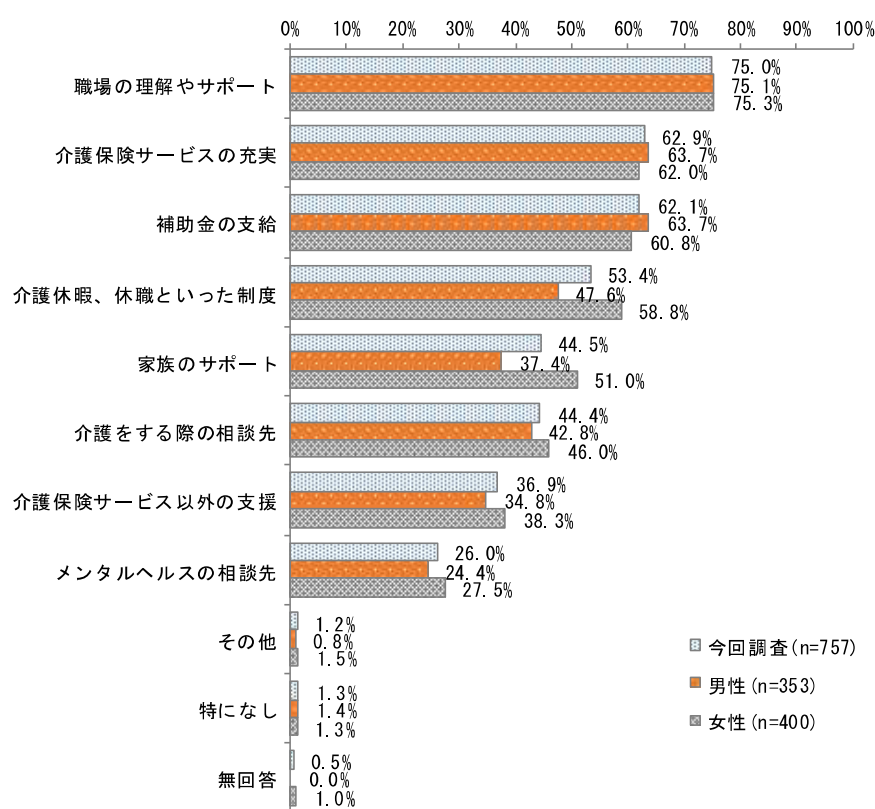
(3)介護を要因とした離職を防ぐためには何が必要だと思いますか。(複数選択可)

全体では、「職場の理解やサポート」75.0%が最も高く、次いで「介護保険サービスの充実」62.9%、「補助金の支給」62.1%となっている。

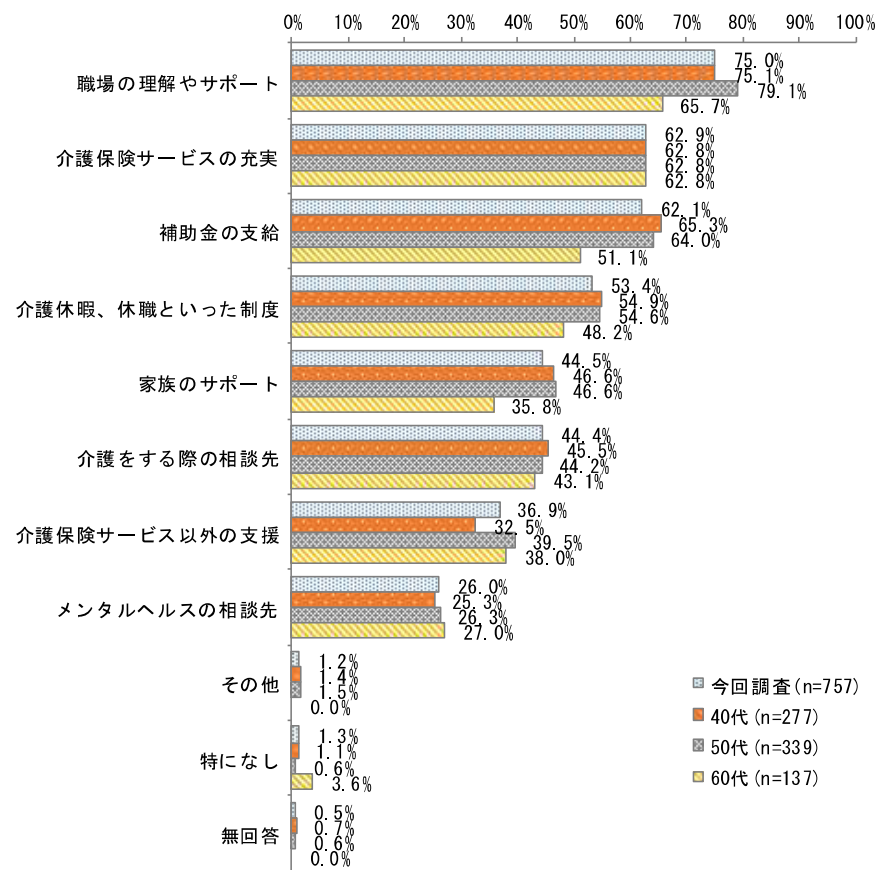
男女別でみると、「介護休暇、休職といった制度」、「家族のサポート」ではいずれも女性が男性を11.2ポイント以上上回る。

年代別でみると、「職場の理解やサポート」では50代が他の年代に比べて高く、79.1%を占めている。

【介護離職を防ぐために必要なこと（男女別）】



【介護離職を防ぐために必要なこと（年代別）】



(4)介護が必要になった方が、在宅での生活を続けていくために特に必要と考えることは何ですか。(3つまで選択可)

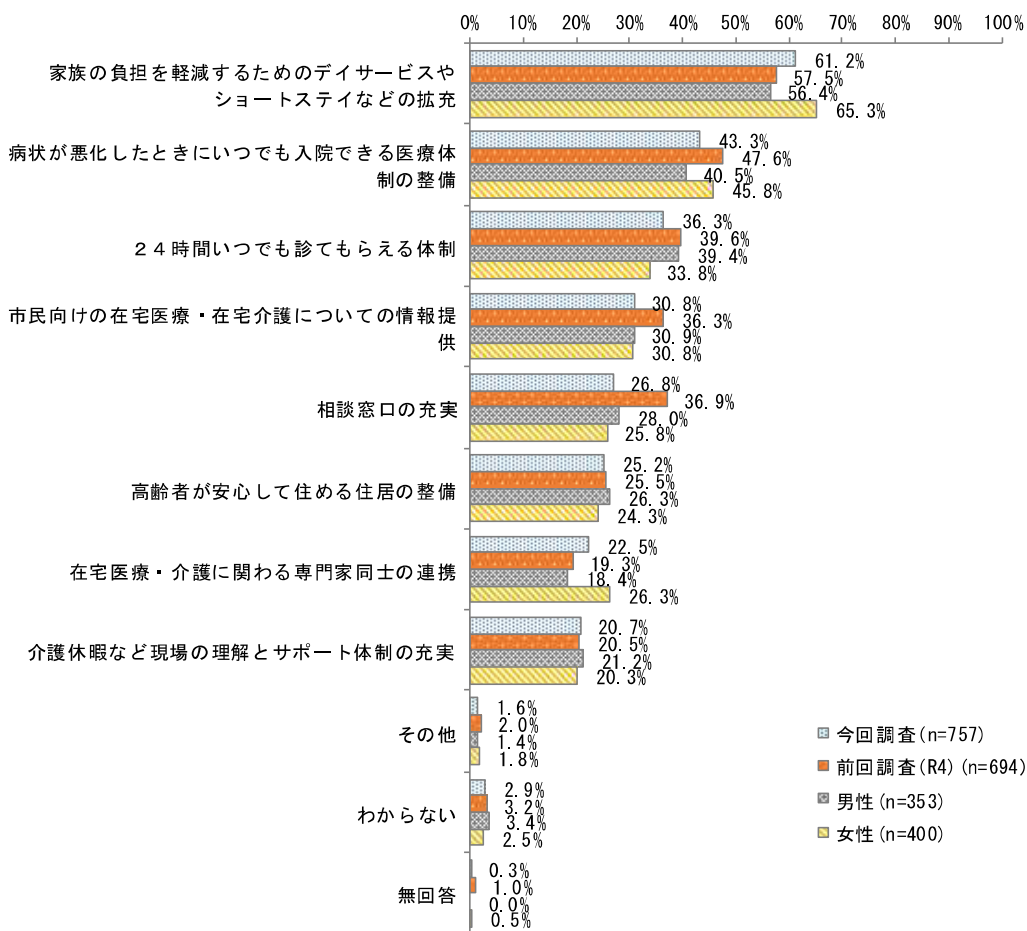
全体では、「家族の負担を軽減するためのデイサービスやショートステイなどの拡充」61.2%が最も高く、次いで「病状が悪化したときにいつでも入院できる医療体制の整備」43.3%、「24時間いつでも診てもらえる体制」36.3%となっている。

前回調査と比較すると、「市民向けの在宅医療・在宅介護についての情報提供」は5.5ポイント、「相談窓口の充実」は10.1ポイント減少している。

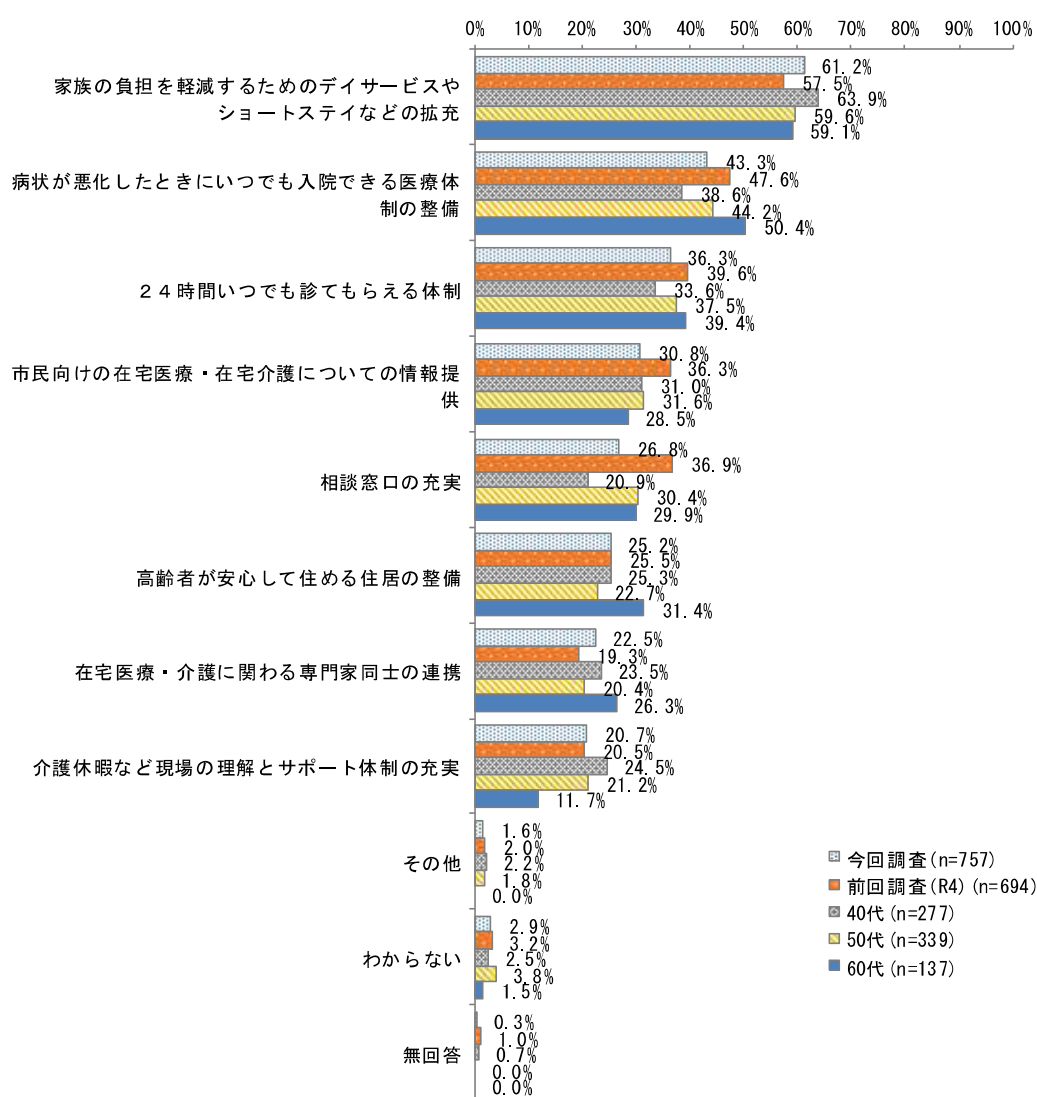
男女別でみると、「家族の負担を軽減するためのデイサービスやショートステイなどの拡充」では8.9ポイント、「病状が悪化したときにいつでも入院できる医療体制の整備」では5.3ポイント、「在宅医療・介護に関わる専門家同士の連携」では7.9ポイント女性が男性を上回る。一方で、「24時間いつでも診てもらえる体制」は男性が女性より5.6ポイント高くなっている。

年代別でみると、全ての年代で「家族の負担を軽減するためのデイサービスやショートステイなどの拡充」の割合が最も高く、約6割を占めている。次いで「病状が悪化したときにいつでも入院できる医療体制の整備」が高く、60代では50.4%と他の年代を上回っている。

【在宅生活を続けるために必要なこと（男女別）】



【在宅生活を続けるために必要なこと（年代別）】



問4 将来、あなたに介護が必要となった場合について

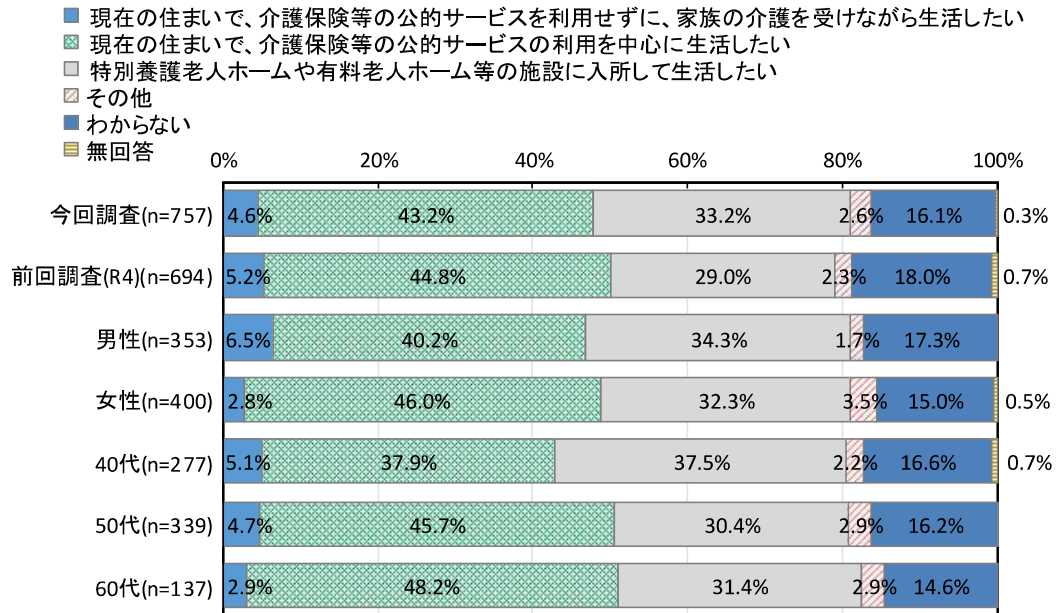
(1)あなたが介護を必要とする状態となった場合に、どのような生活を希望しますか。(1つを選択)

全体では、「現在の住まいで、介護保険等の公的サービスの利用を中心に生活したい」43.2%が最も高く、次いで「特別養護老人ホームや有料老人ホーム等の施設に入所して生活したい」33.2%、「わからない」16.1%となっている。

前回調査と比較して大きな差異はみられない。

男女別でみると、「現在の住まいで、介護保険等の公的サービスの利用を中心に生活したい」の割合は女性が男性を5.8ポイント上回る。

年代別でみると、「現在の住まいで、介護保険等の公的サービスの利用を中心に生活したい」は60代で48.2%と最も高く、年齢が上がるにつれて割合が高くなっている。



問5 認知症について

(1)認知症に関する相談ができる相手のうち、知っているものはありますか。(複数選択可)

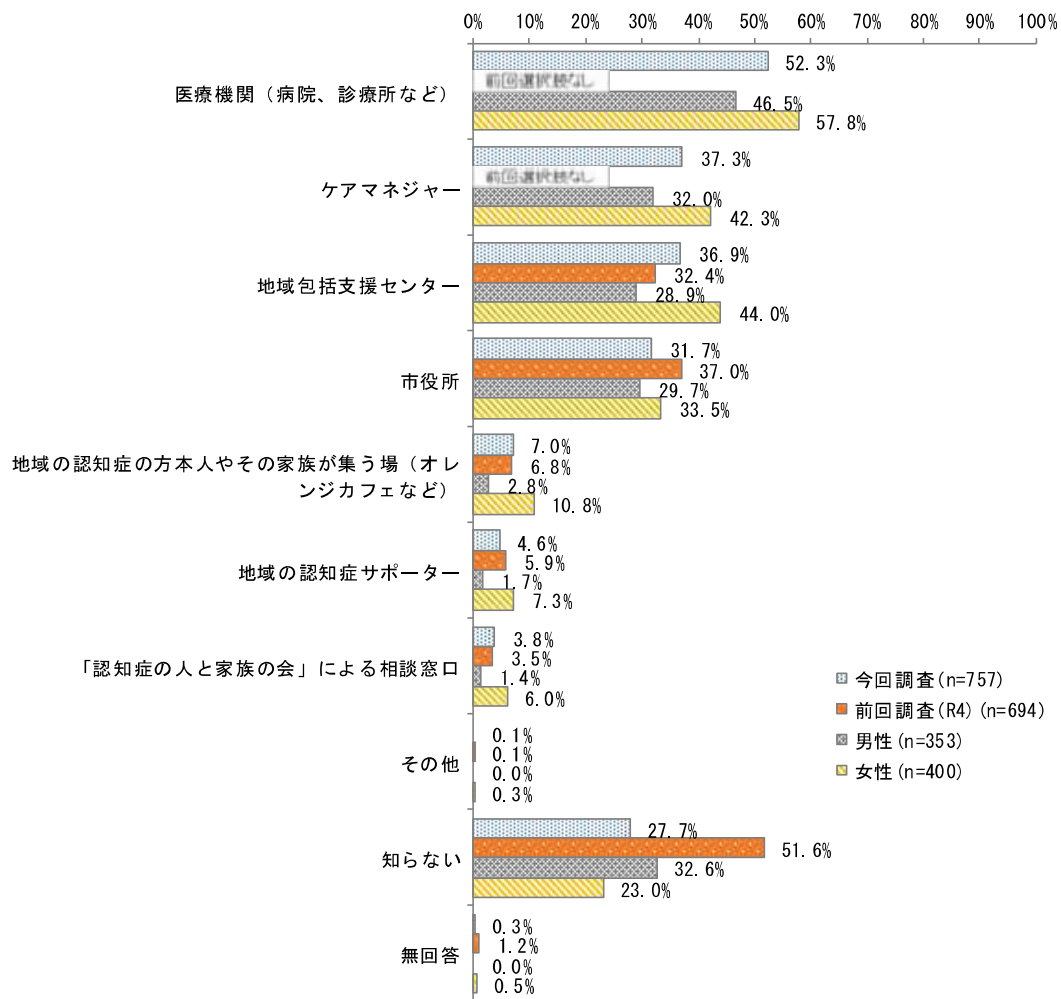
全体では、「医療機関（病院、診療所など）」52.3%が最も高く、次いで「ケアマネジャー」37.3%、「地域包括支援センター」36.9%となっている。

前回調査と比較すると、今回新たに追加された「医療機関（病院、診療所など）」、「ケアマネジャー」はいずれも高い割合を占める一方で、「知らない」は23.9ポイントと大きく減少している。

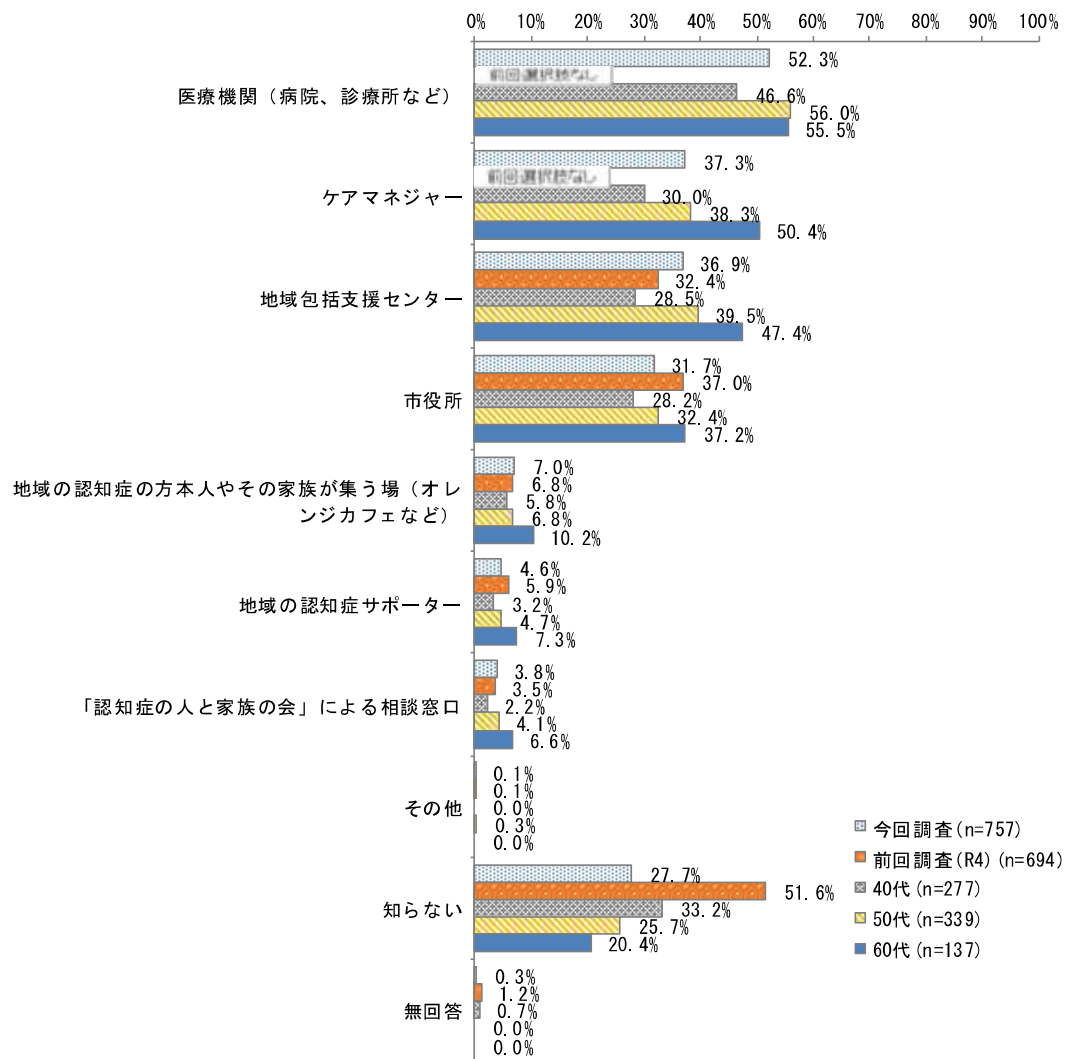
男女別でみると、「知らない」の割合は男性が女性を9.6ポイント上回る。一方で、その他の全ての項目では女性が男性を上回り、特に「地域包括支援センター」では15.1ポイント高くなっている。

年代別でみると、全ての年代で「医療機関（病院、診療所など）」が最も高く、50代、60代では半数以上を占めている。

【認知症に関する相談先の認知（男女別）】



【認知症に関する相談先の認知（年代別）】



(2)認知症に対する取組として必要だと思うことはありますか。(複数選択可)

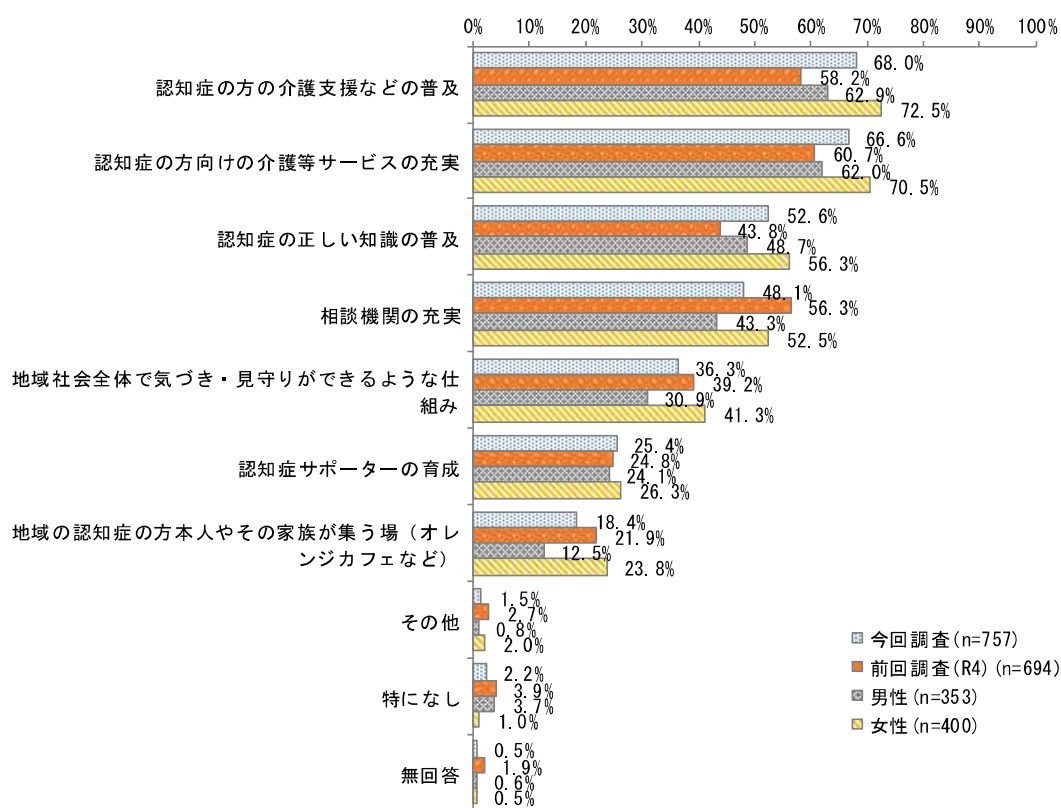
全体では、「認知症の方の介護支援などの普及」68.0%が最も高く、次いで「認知症の方向けの介護等サービスの充実」66.6%、「認知症の正しい知識の普及」52.6%となっている。

前回調査と比較すると、「認知症の方の介護支援などの普及」では9.8ポイント、「認知症の方向けの介護等サービスの充実」では5.9ポイント、「認知症の正しい知識の普及」では8.8ポイント増加している一方で、「相談機関の充実」では8.2ポイント減少している。

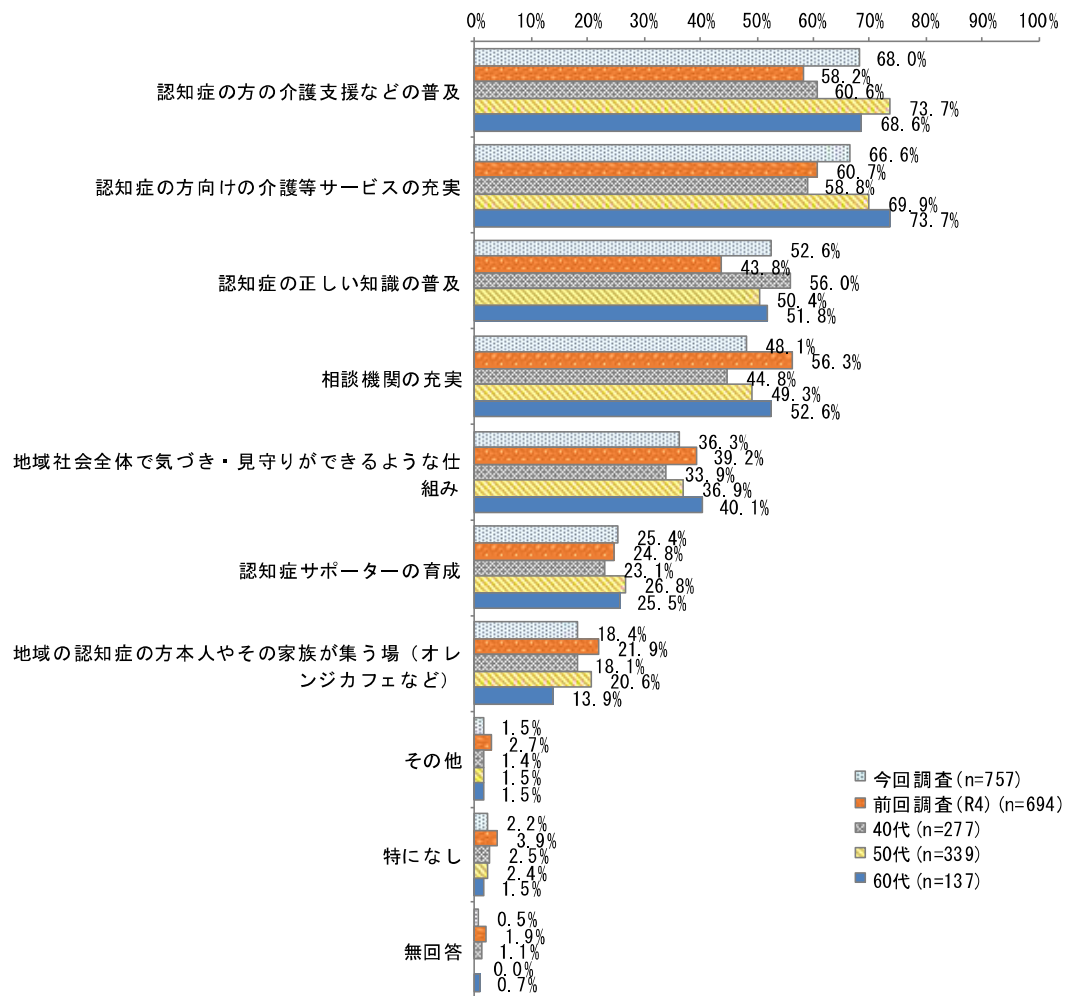
男女別でみると、「特になし」を除く全ての項目で女性が男性を上回り、特に「地域社会全体で気づき・見守りができるような仕組み」では10.4ポイント、「地域の認知症の方本人やその家族が集う場（オレンジカフェなど）」では11.3ポイント高くなっている。

年代別でみると、40代、50代では「認知症の方の介護支援などの普及」、60代では「認知症の方向けの介護等サービスの充実」の割合が最も高くなっている。

【認知症に対する取組で必要なもの（男女別）】



【認知症に対する取組で必要なもの（年代別）】



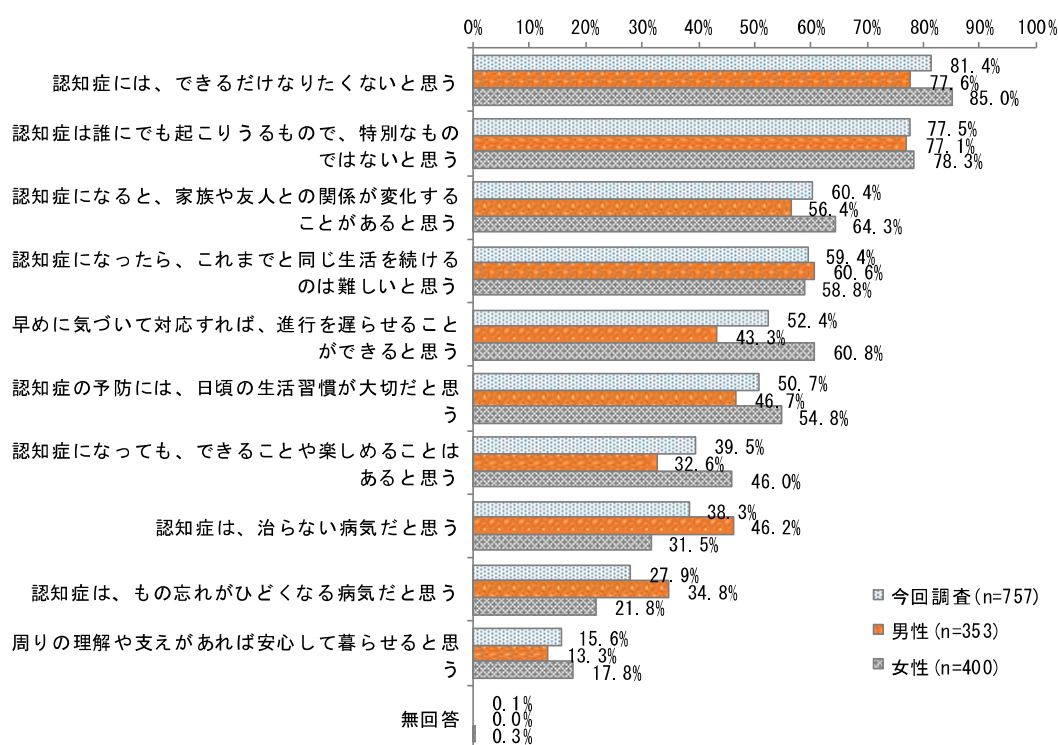
(3)あなたは認知症をどのように思いますか。(複数選択可)

全体では、「認知症には、できるだけなりたくないと思う」81.4%が最も高く、次いで「認知症は誰にでも起こりうるもので、特別なものではないと思う」77.5%、「認知症になると、家族や友人との関係が変化することがあると思う」60.4%となっている。

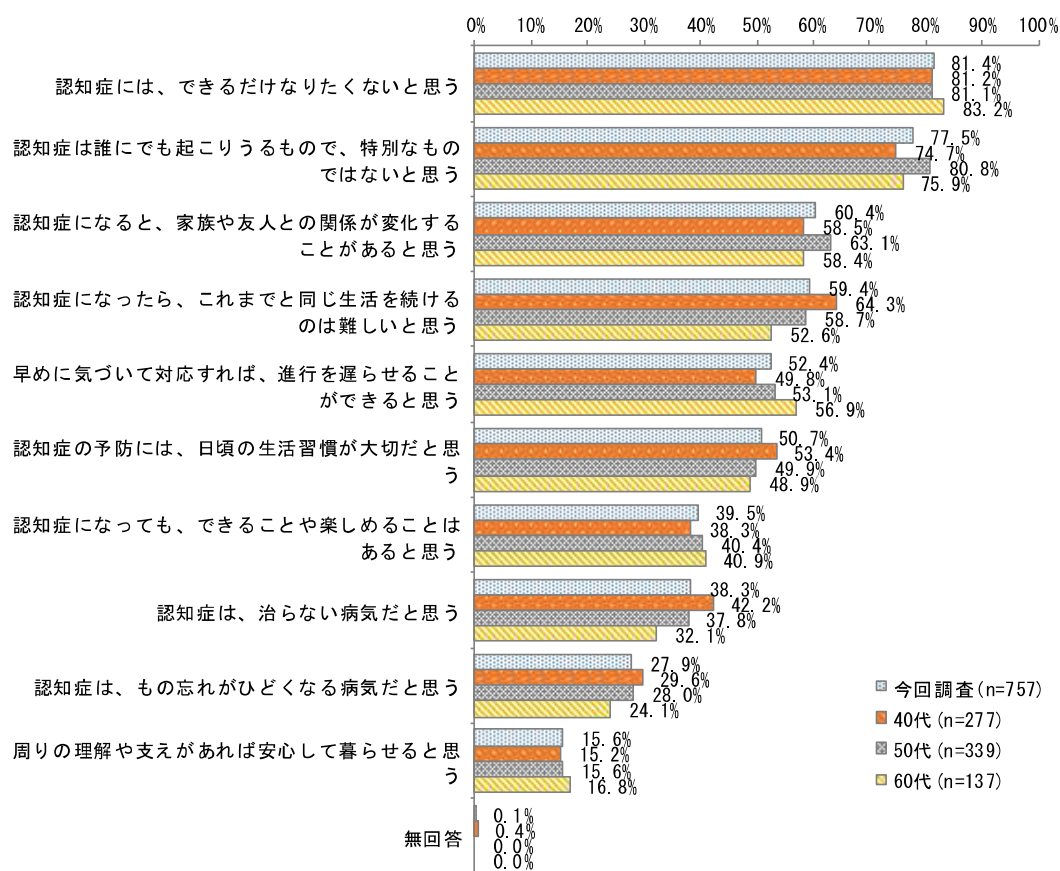
男女別でみると、「認知症は、治らない病気だと思う」では14.7ポイント、「認知症は、もの忘れがひどくなる病気だと思う」ではいずれも13.0ポイント男性が女性を上回る。また、「認知症になったら、これまでと同じ生活を続けるのは難しいと思う」についても、男性が女性をわずかに上回っている。その他の項目ではいずれも女性が男性を上回り、特に「早めに気づいて対応すれば、進行を遅らせることができると思う」では17.5ポイント高くなっている。

年代別でみると、全ての年代で「認知症には、できるだけなりたくないと思う」の割合が最も高く、8割以上を占めている。

【認知症をどのように思うか（男女別）】



【認知症をどのように思うか（年代別）】



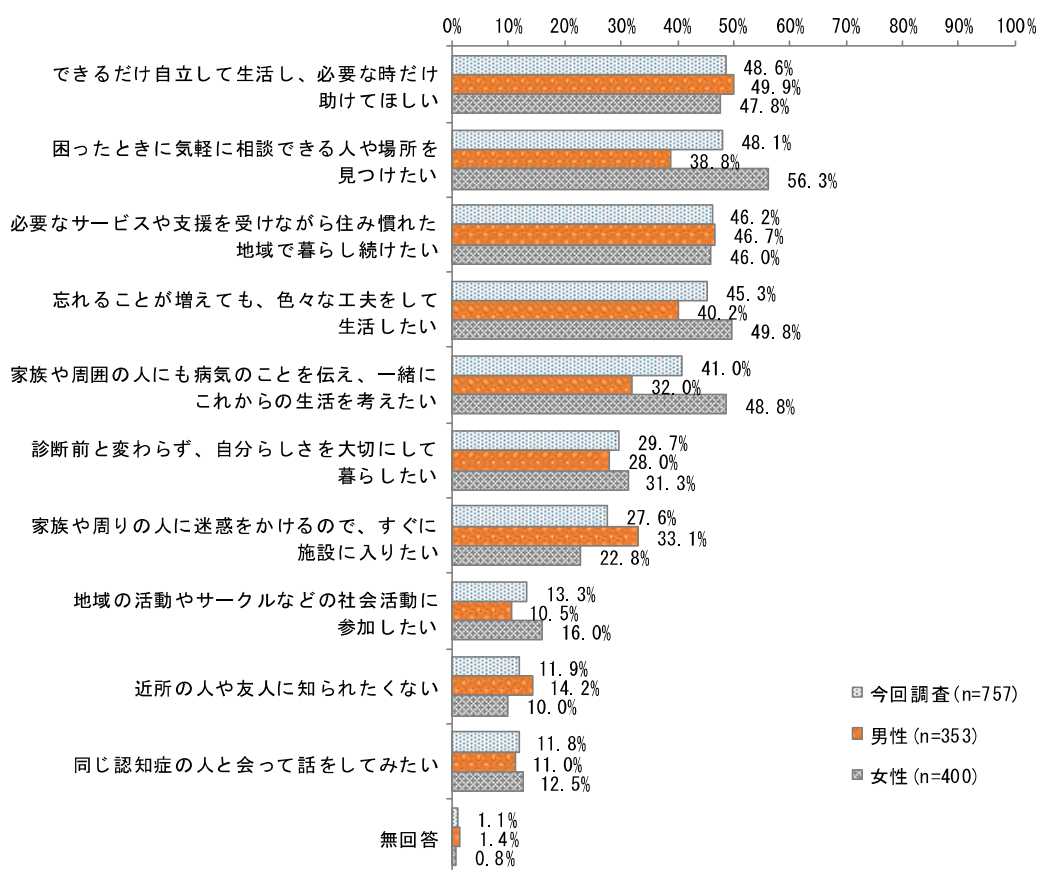
(4)あなたは認知症と診断されたら、その後どのように生活したいですか。(複数選択可)

全体では、「できるだけ自立して生活し、必要な時だけ助けてほしい」48.6%が最も高く、次いで「困ったときに気軽に相談できる人や場所を見つけない」48.1%、「必要なサービスや支援を受けながら住み慣れた地域で暮らし続けたい」46.2%となっている。

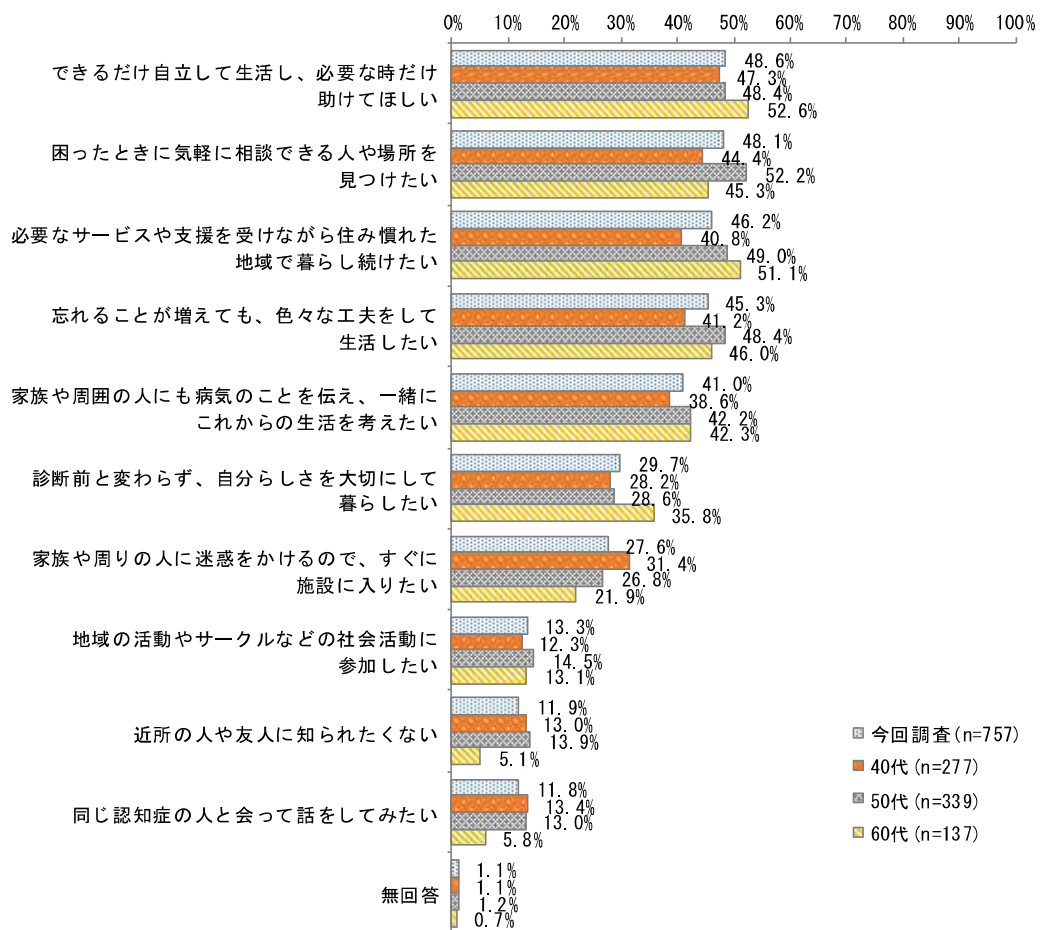
男女別でみると、「忘れることが増えても、色々な工夫をして生活したい」では9.6ポイント、「地域の活動やサークルなどの社会活動に参加したい」では5.5ポイント、「困ったときに気軽に相談できる人や場所を見つけない」では17.5ポイント、「家族や周囲の人にも病気のことを伝え、一緒にこれからの生活を考えたい」では16.8ポイント女性が男性を上回る。一方で、「家族や周囲の人に迷惑をかけるので、すぐに施設に入りたい」では男性が女性より10.3ポイント高くなっている。

年代別でみると、40代、60代では「できるだけ自立して生活し、必要な時だけ助けてほしい」、50代では「困ったときに気軽に相談できる人や場所を見つけない」の割合が最も高くなっている。

【認知症と診断されたらどのように生活したいか（男女別）】



【認知症と診断されたらどのように生活したいか（年代別）】

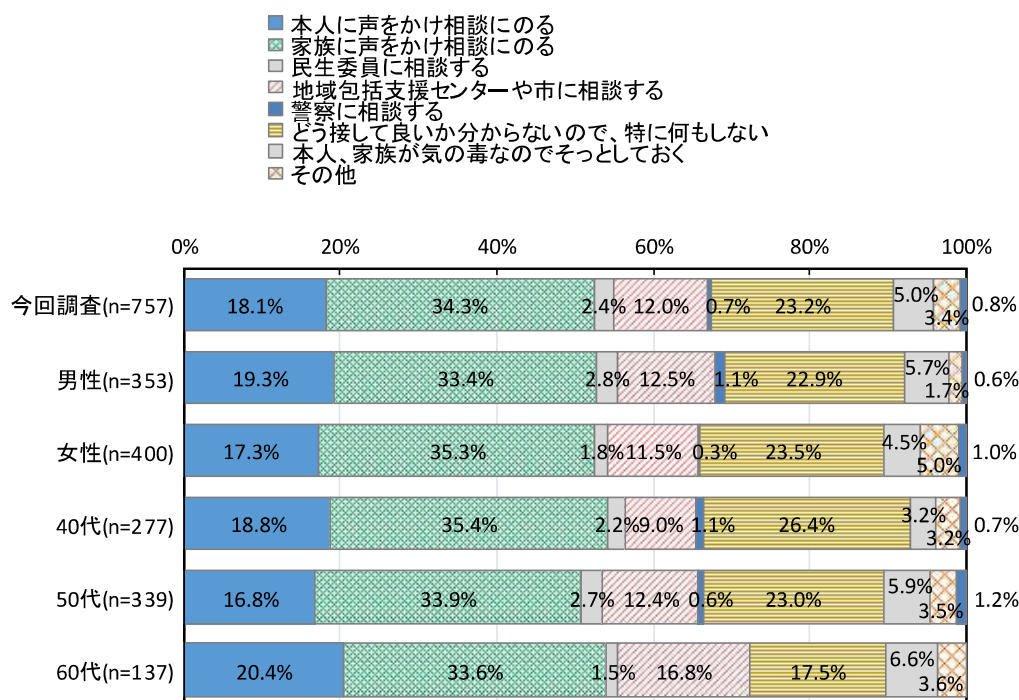


(5)あなたは、もし認知症と思われる方が知り合いにいたら、まずはどのように対応したいと思いますか。(1つを選択)

全体では、「家族に声をかけ相談にのる」34.3%が最も高く、次いで「どう接して良いか分からないので、特に何もしない」23.2%、「本人に声をかけ相談にのる」18.1%となっている。

男女別でみると、大きな差異はみられない。

年代別でみると、全ての年代で「家族に声をかけ相談にのる」が最も高く3割以上を占める。「どう接して良いか分からないので、特に何もしない」では年代が若くなるにつれて割合は高くなり、40代では26.4%となっている。

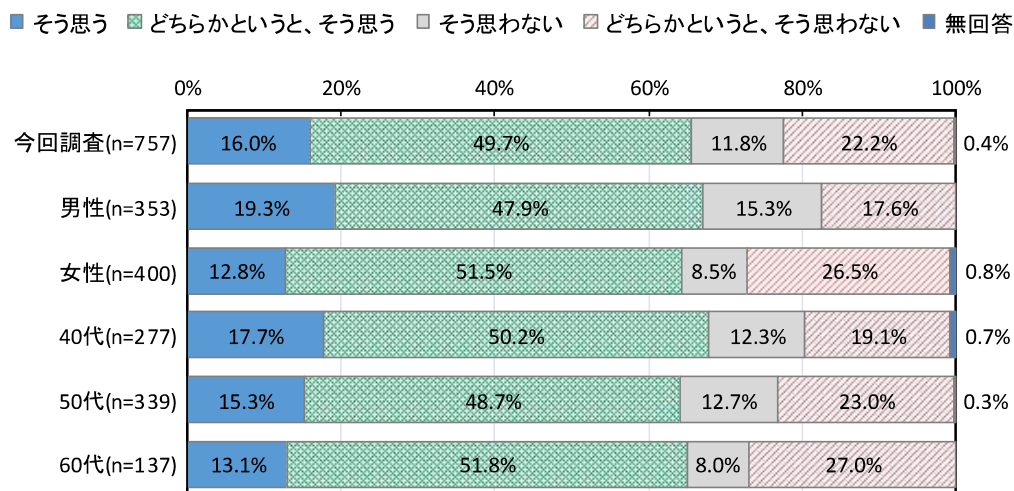


(6)あなたは、認知症になってからも住み慣れた地域で暮らし続けることができますか。
(1つを選択)

全体では、「どちらかという、そう思う」49.7%が最も高く、次いで「どちらかという、そう
思わない」22.2%、「そう思う」16.0%となっている。『そう思う』（「そう思う」＋「どちらかという、
そう思う」）の割合は65.7%を占める。

男女別でみると、『そう思う』の割合は男性67.2%、女性64.3%となっている。

年代別でみると、『そう思う』の割合は40代で最も高く67.9%となっている。

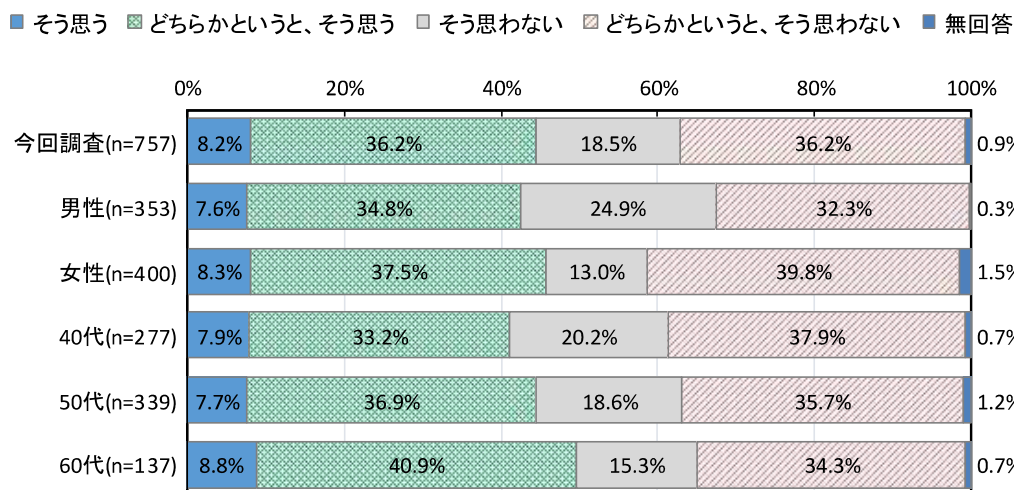


(7)あなたは、認知症になってからも希望を持って自分らしく暮らし続けることができますか。(1つを選択)

全体では、「どちらかという、そう思う」、「どちらかという、そう思わない」がいずれも36.2%と最も高く、次いで「そう思わない」18.5%、「そう思う」8.2%となっている。『そう思う』（「そう思
う」＋「どちらかという、そう思う」）の割合は44.4%を占める。

男女別でみると、『そう思う』の割合は男性42.4%、女性45.8%と女性がやや高くなっている。

年代別でみると、『そう思う』の割合は年代が上がるにつれて高くなっており、60代では49.7%となっている。



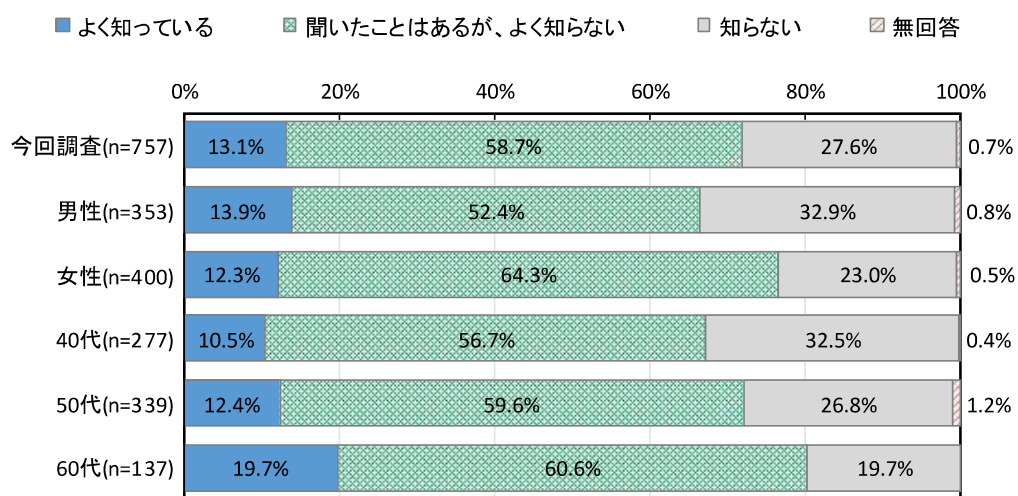
問6 成年後見制度について

(1)成年後見制度について、知っていますか。(1つを選択)

全体では、「聞いたことはあるが、よく知らない」58.7%が最も高く、次いで「知らない」27.6%、「よく知っている」13.1%となっている。

男女別でみると、「聞いたことはあるが、よく知らない」の割合は女性が男性より11.9ポイント高くなっている。

年代別でみると、60代では「よく知っている」の割合が19.7%と他の年代に比べて高くなっている。



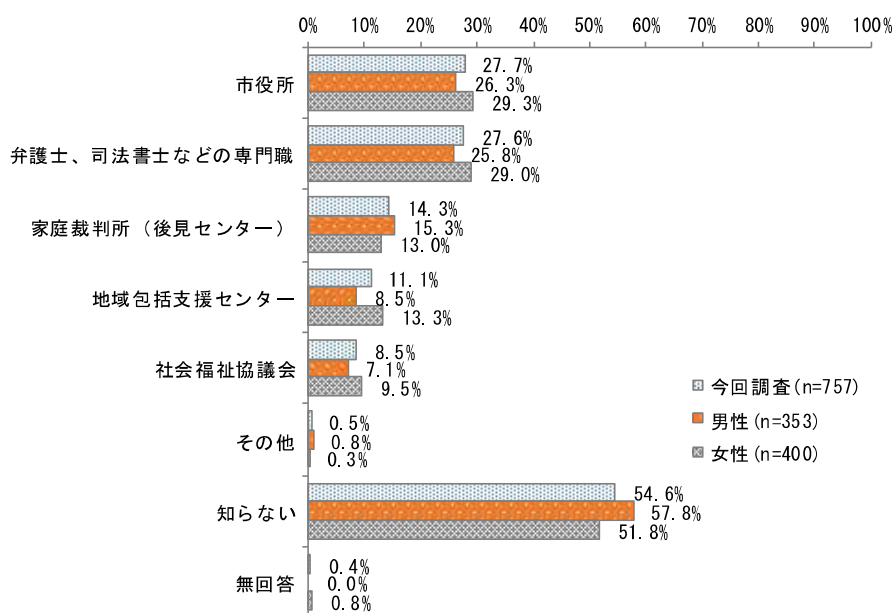
(2)成年後見制度に関する相談窓口のうち、知っているものはありますか。(複数選択可)

全体では、「知らない」54.6%が最も高く、次いで「市役所」27.7%、「弁護士、司法書士などの専門職」27.6%となっている。

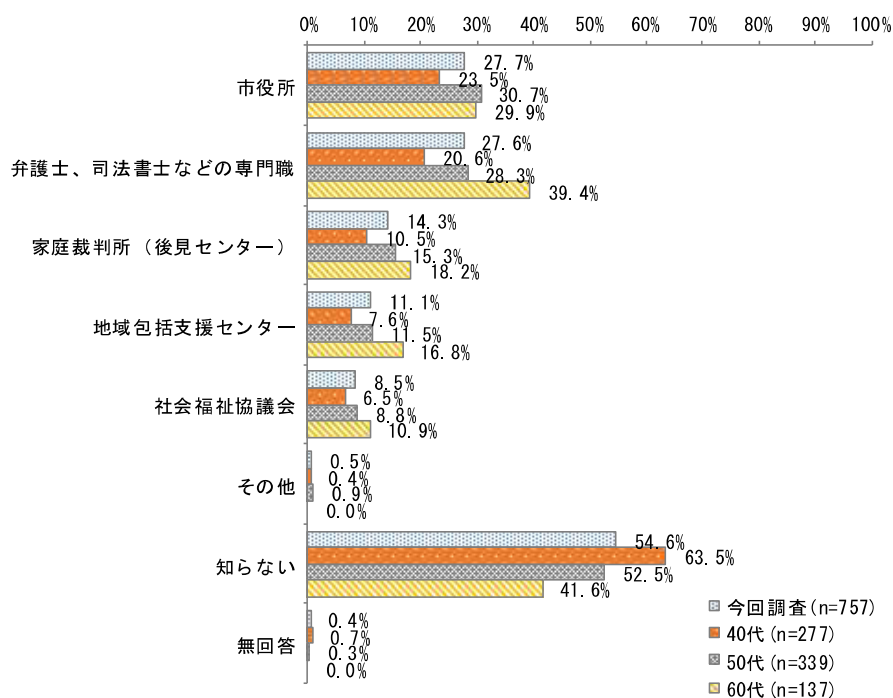
男女別でみると、「知らない」の割合は男性が女性を6.0ポイント上回る。

年代別でみると、全ての年代で「知らない」が最も高く、40代では63.5%を占めている。

【成年後見制度に関する相談窓口の認知（男女別）】



【成年後見制度に関する相談窓口の認知（年代別）】



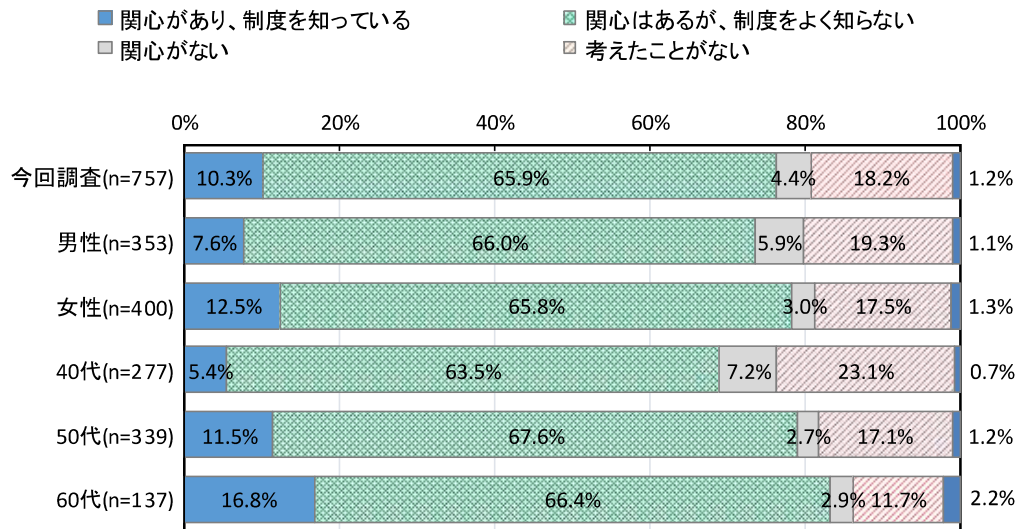
問7 高齢者福祉の支援等について

(1)介護や高齢者に関する福祉に、関心がありますか。(1つを選択)

全体では、「関心はあるが、制度をよく知らない」65.9%が最も高く、次いで「考えたことがない」18.2%、「関心があり、制度を知っている」10.3%となっている。

男女別でみると、「関心があり、制度を知っている」の割合は女性が男性を4.9ポイント上回る。

年代別でみると、「関心があり、制度を知っている」は60代で16.8%と他の年代に比べて高くなっている。



(2)今後、自分が高齢者になったとき、どのような支援が特に必要だと思いますか。
(3つまで選択可)

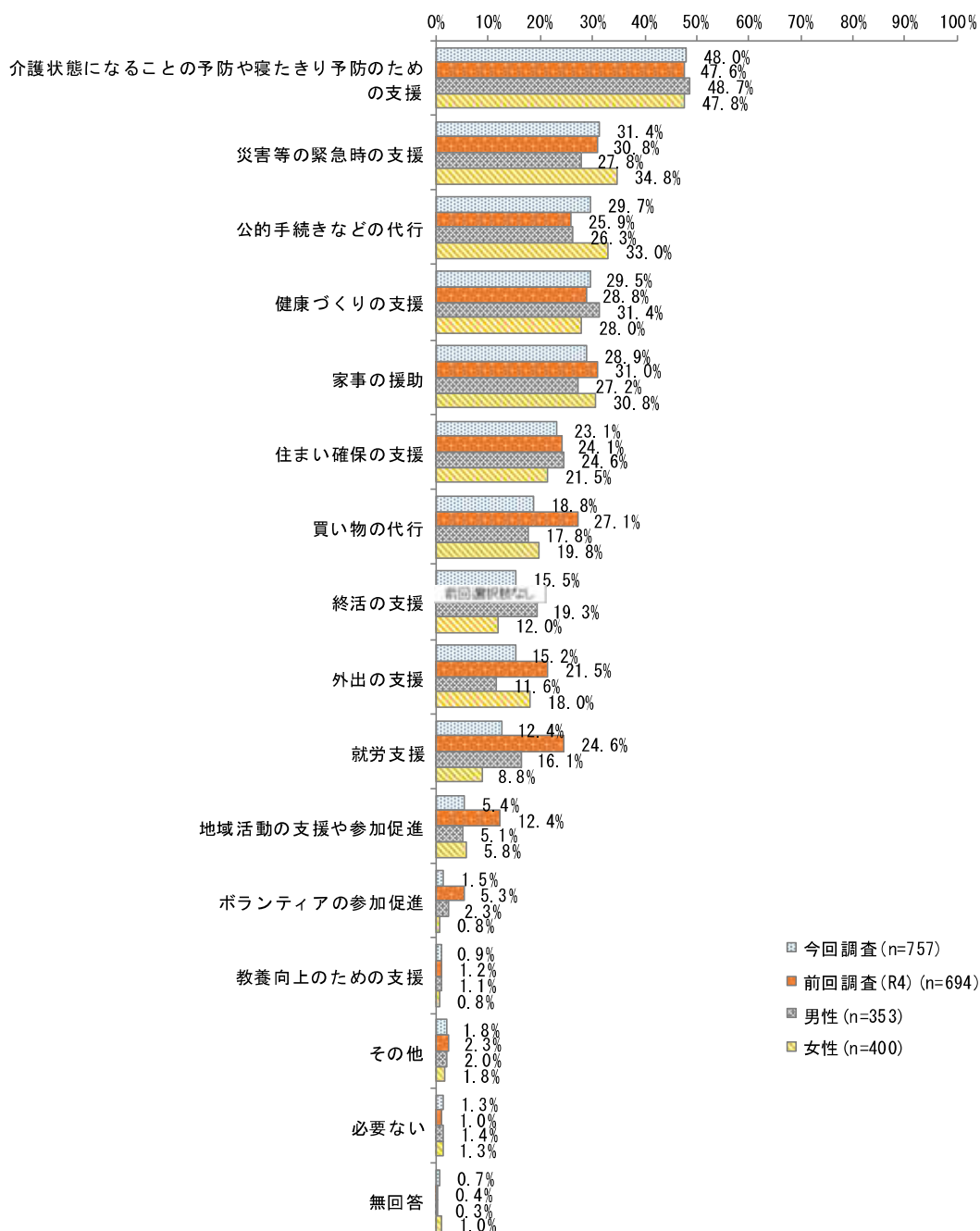
全体では、「介護状態になることの予防や寝たきり予防のための支援」48.0%が最も高く、次いで「災害等の緊急時の支援」31.4%、「公的手続きなどの代行」29.7%となっている。

前回調査と比較すると、「買い物の代行」では8.3ポイント、「外出の支援」では6.3ポイント、「地域活動の支援や参加促進」では7.0ポイント、「就労支援」では12.2ポイント減少した一方で、今回新たに追加された「終活の支援」は15.5%となっている。

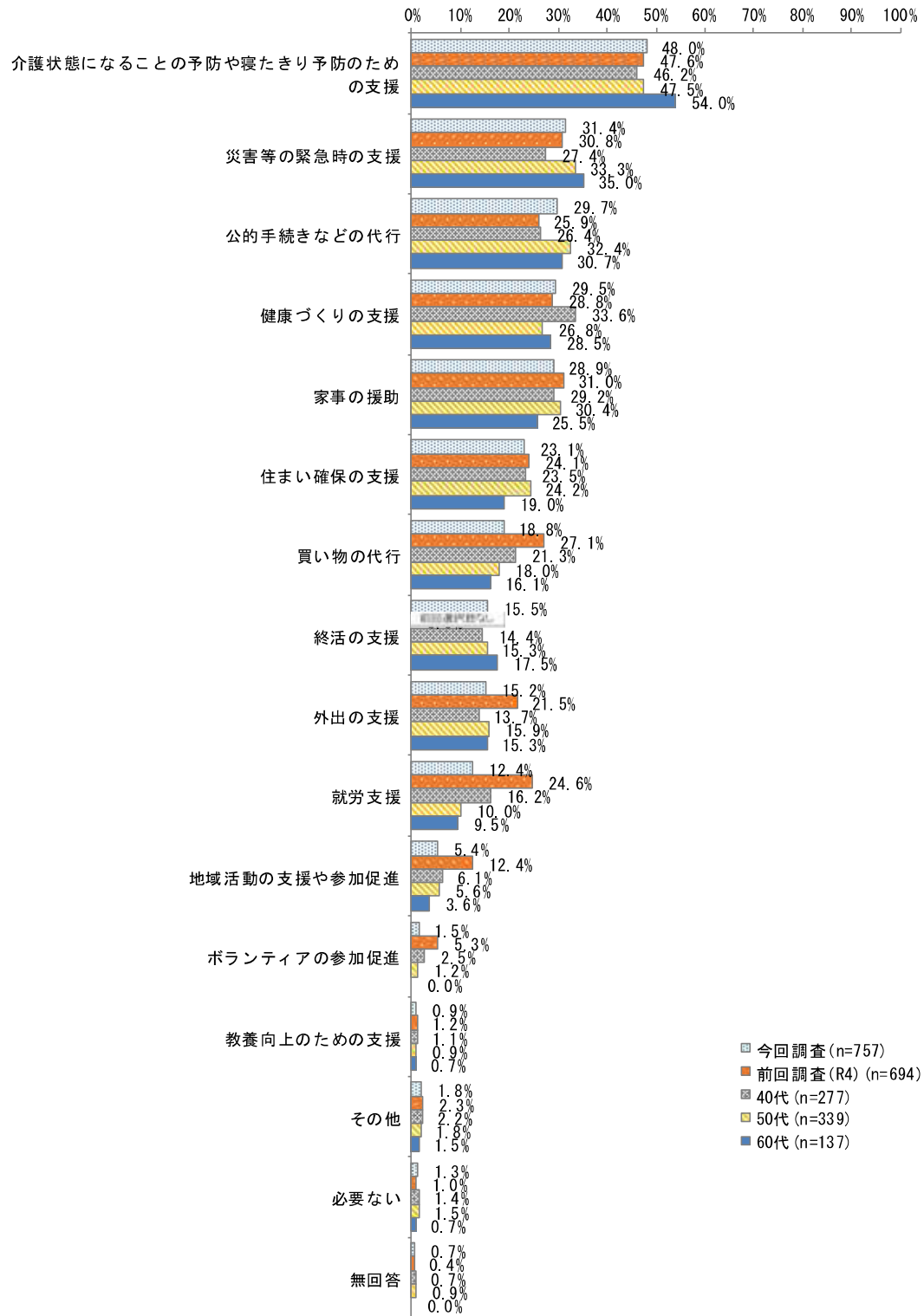
男女別でみると、「災害等の緊急時の支援」では7.0ポイント、「公的手続きなどの代行」では6.7ポイント、「外出の支援」では6.4ポイント女性が男性を上回る。一方で、「終活の支援」、「就労支援」ではいずれも男性が女性より7.3ポイント高くなっている。

年代別でみると、全ての年代で「介護状態になることの予防や寝たきり予防のための支援」の割合が最も高く、60代では54.0%を占めている。

【高齢者になったとき特に必要だと思う支援（男女別）】



【高齢者になったとき特に必要だと思う支援（年代別）】



問8 人生会議（アドバンス・ケア・プランニング／ACP）について

(1)あなたが、ご自身の人生の最期を早い段階から考えることについて、どのように思いますか。
(複数選択可)

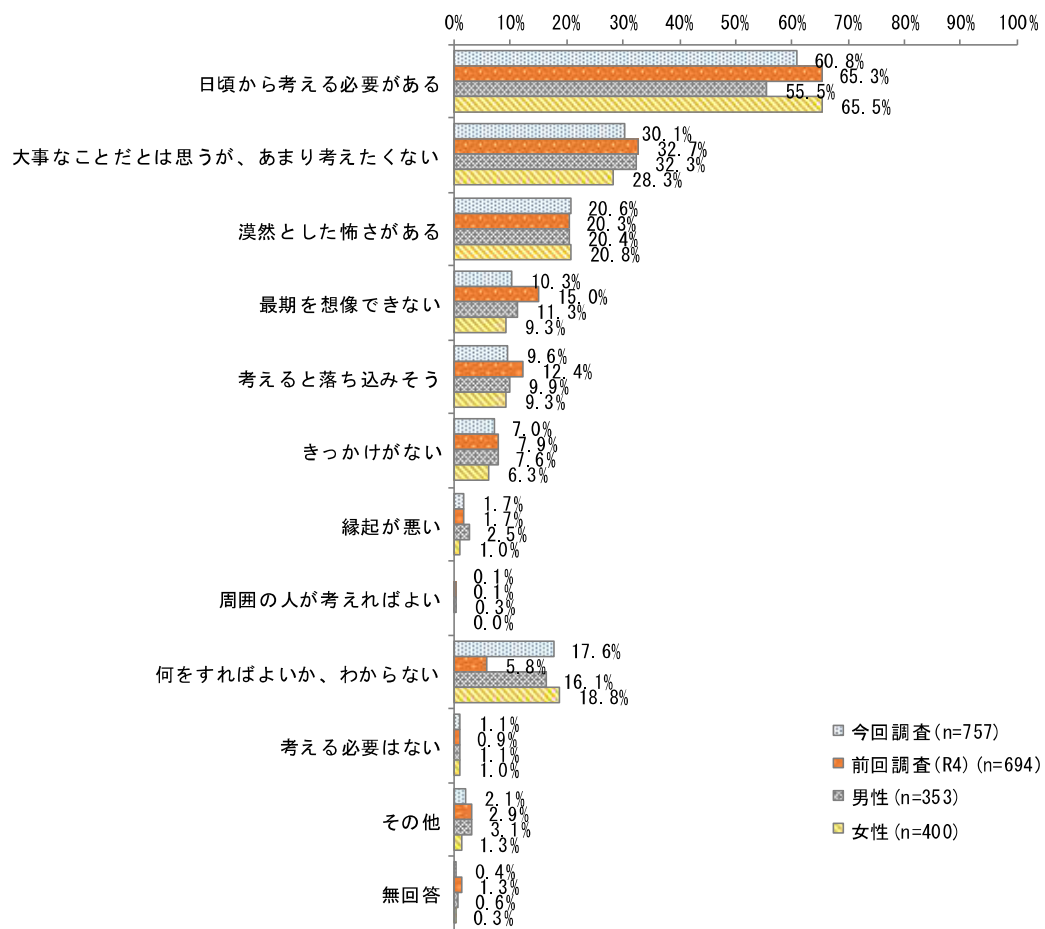
全体では、「日頃から考える必要がある」60.8%が最も高く、次いで「大事なことだとは思いますが、あまり考えたくない」30.1%、「漠然とした怖さがある」20.6%となっている。

前回調査と比較すると、「何をすればよいか、わからない」は11.8ポイント増加している。

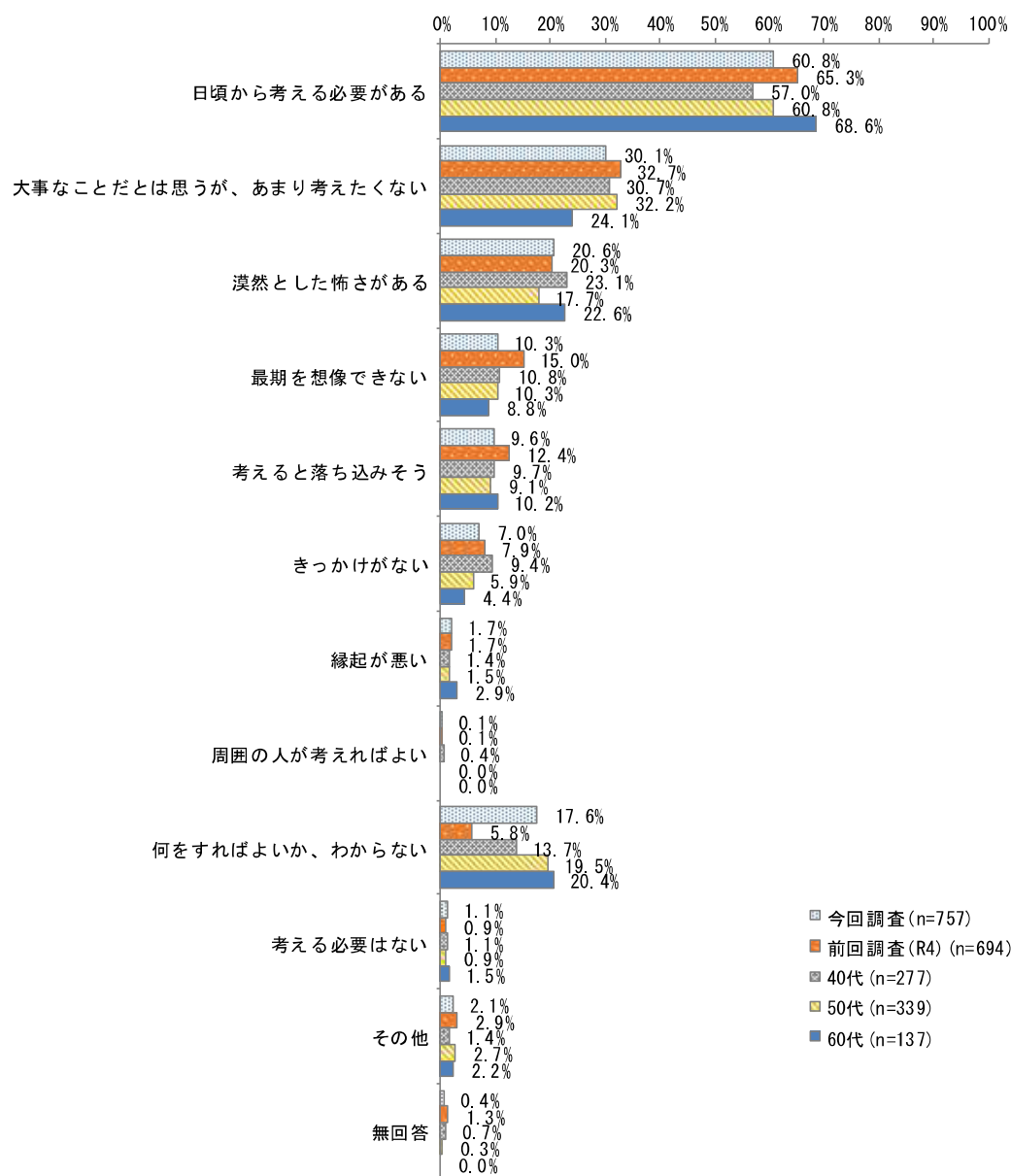
男女別でみると、「日頃から考える必要がある」の割合は女性が男性を10.0ポイント上回る。

年代別でみると、全ての年代で「日頃から考える必要がある」の割合が最も高く、60代では68.6%と他の年代に比べて高くなっている。

【自身の人生の最期を早い段階から考えることについて（男女別）】



【自身の人生の最期を早い段階から考えることについて（年代別）】



(2)あなたの家族が、それぞれの人生の最期を早い段階から考えることについて、どのように思いますか。(複数選択可)

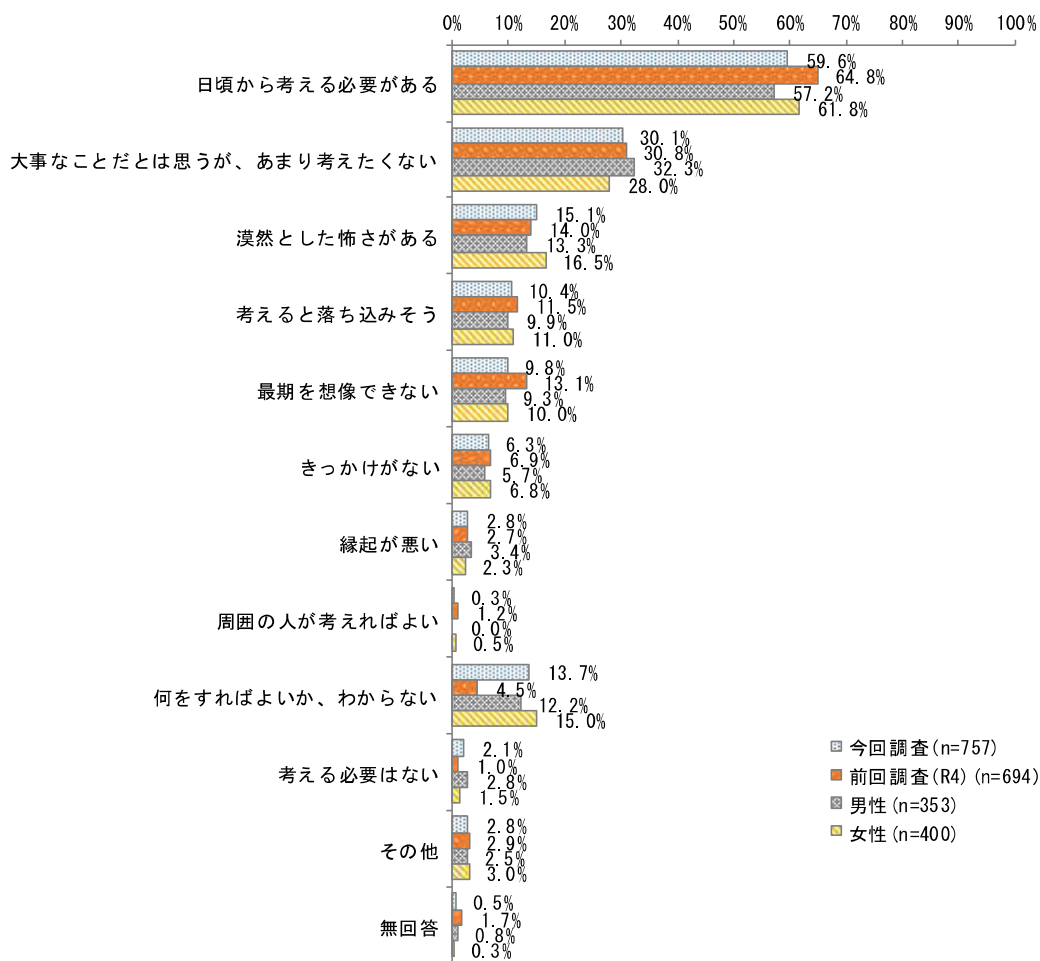
全体では、「日頃から考える必要がある」59.6%が最も高く、次いで「大事なことだとは思いますが、あまり考えたくない」30.1%、「漠然とした怖さがある」15.1%となっている。

前回調査と比較すると、「日頃から考える必要がある」は5.2ポイント減少した一方で、「何をすればよいか、わからない」は9.2ポイント増加している。

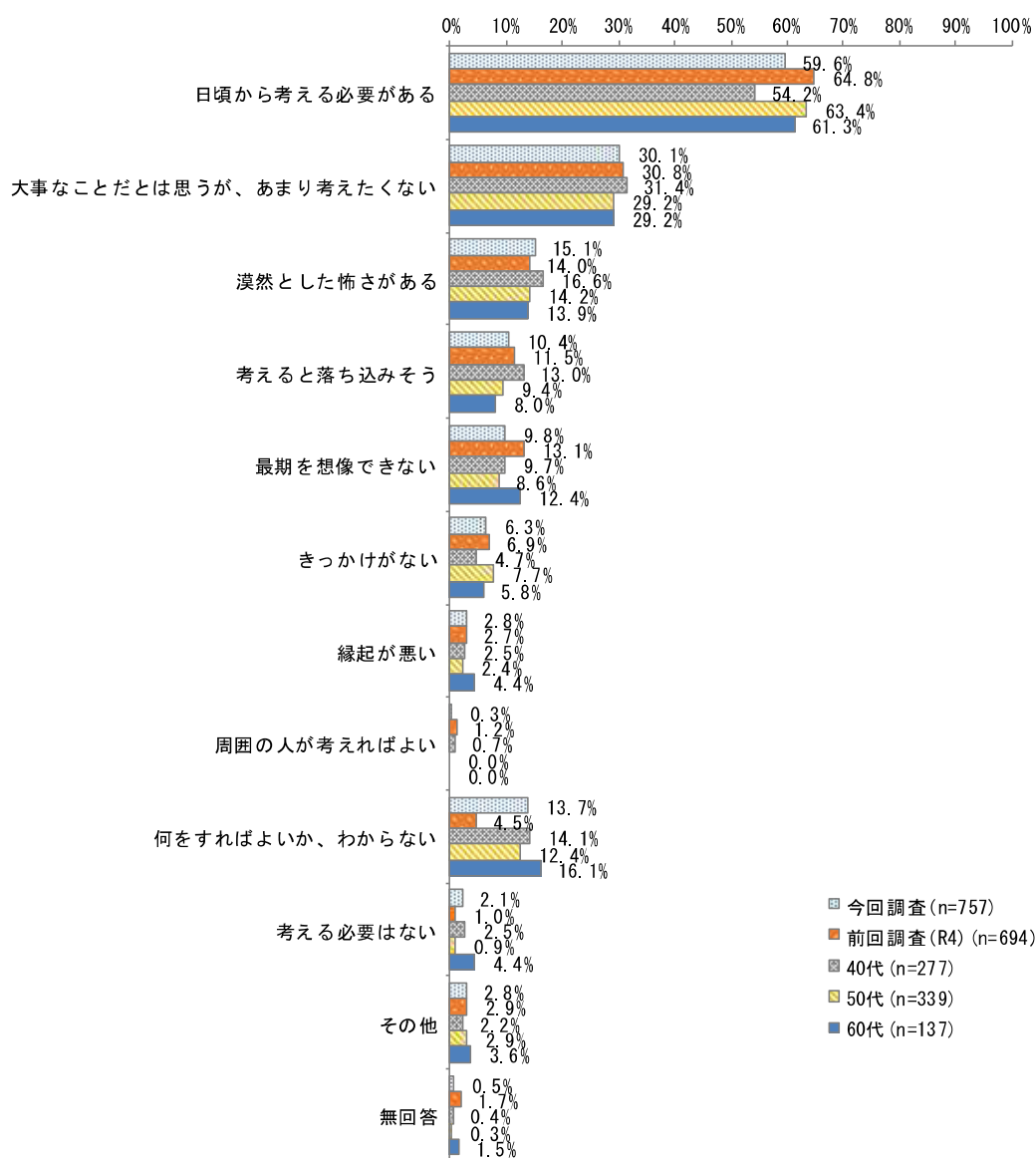
男女別でみると、大きな差異はみられない。

年代別でみると、全ての年代で「日頃から考える必要がある」の割合が最も高く、50代、60代ではいずれも6割以上を占めている。

【家族が人生の最期を早い段階から考えることについて（男女別）】



【家族が人生の最期を早い段階から考えることについて（年代別）】



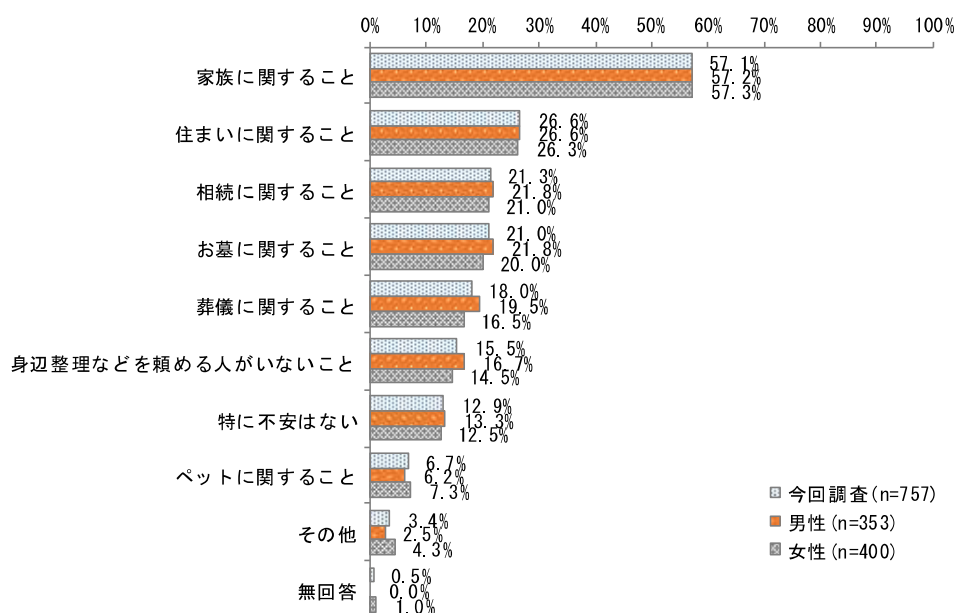
(3)あなたが人生の最終段階を考えたとき、どのようなことが不安ですか。(複数選択可)

全体では、「家族に関すること」57.1%が最も高く、次いで「住まいに関すること」26.6%、「相続に関すること」21.3%となっている。

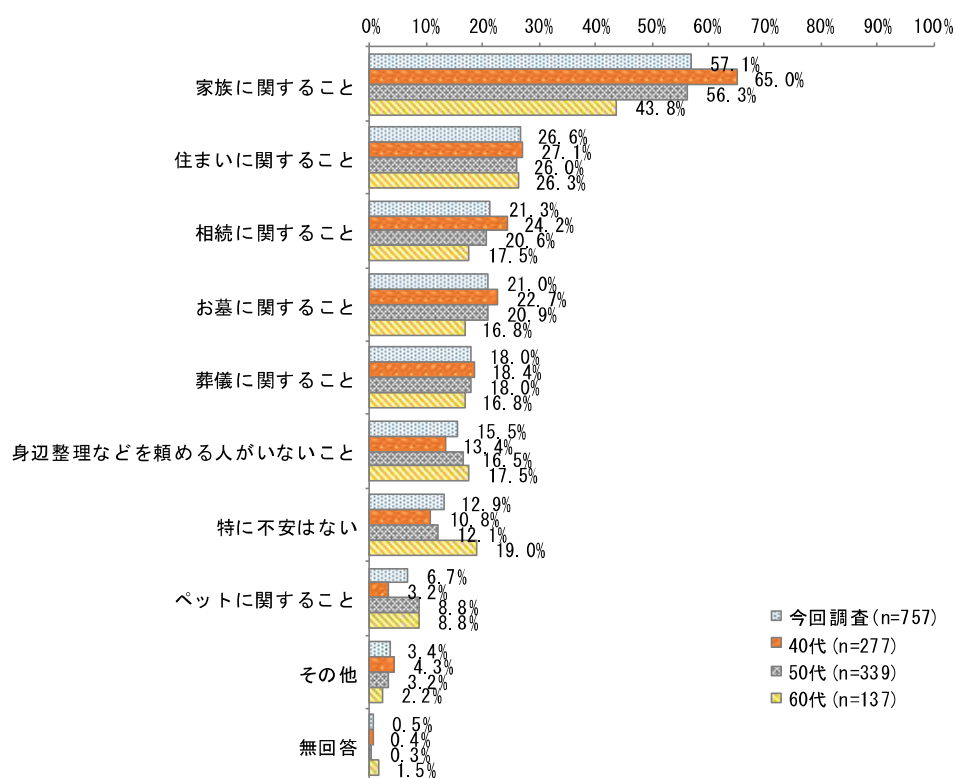
男女別でみると、大きな差異はみられない。

年代別でみると、全ての年代で「家族に関すること」の割合が最も高く、40代では65.0%と他の年代に比べて高くなっている。

【人生の最終段階を考えたとき、不安なこと（男女別）】



【人生の最終段階を考えたとき、不安なこと（年代別）】

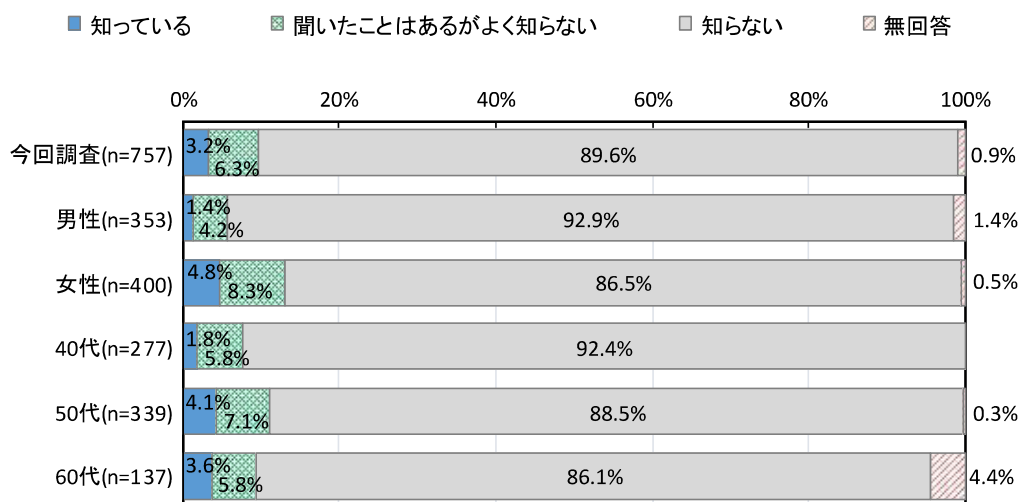


(4)あなたは、人生会議(アドバンス・ケア・プランニング／ACP)について、これまで知っていましたか。(1つを選択)

全体では、「知らない」89.6%が最も高く、次いで「聞いたことはあるがよく知らない」6.3%、「知っている」3.2%となっている。

男女別でみると、「知らない」の割合は男性が女性を6.4ポイント上回る。

年代別でみると、全ての年代で「知らない」の割合が最も高く、40代では92.4%と他の年代に比べて高くなっている。

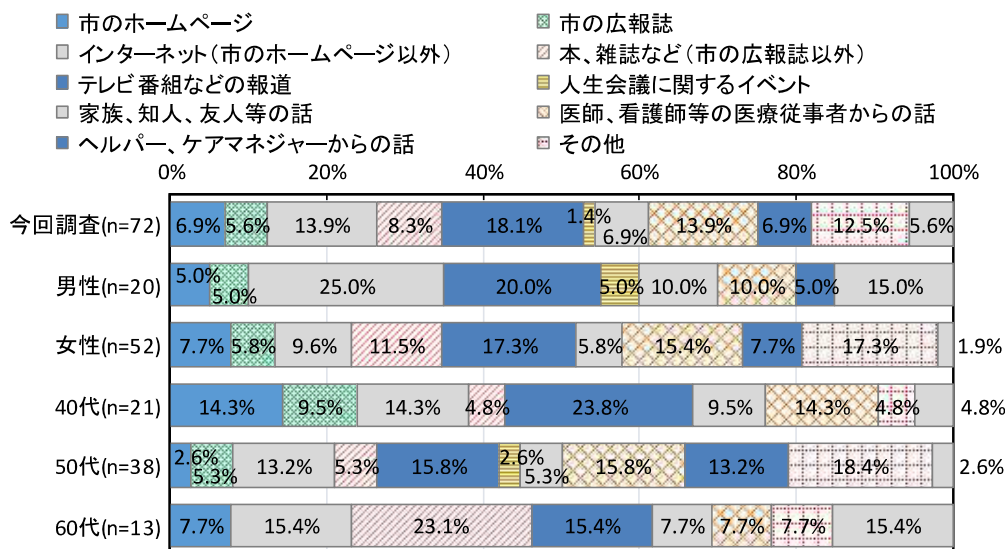


【(4)で「1. 知っている」「2. 聞いたことはあるがよく知らない」と回答した方のみ、ご回答ください】
① 人生会議を知ったきっかけは何ですか。(1つを選択)

全体では、「テレビ番組などの報道」18.1%が最も高く、次いで「インターネット（市のホームページ以外）」13.9%、「医師、看護師等の医療従事者からの話」13.9%、「その他」12.5%となっている。

男女別でみると、「インターネット（市のホームページ以外）」の割合は男性が女性を15.4ポイント上回る。一方で、「本、雑誌など（市の広報誌以外）」では11.5ポイント女性が男性より高くなっている。

年代別でみると、40代では「テレビ番組などの報道」が23.8%、50代では「その他」が18.4%、60代では「本、雑誌など（市の広報誌以外）」が23.1%と最も高くなっている。

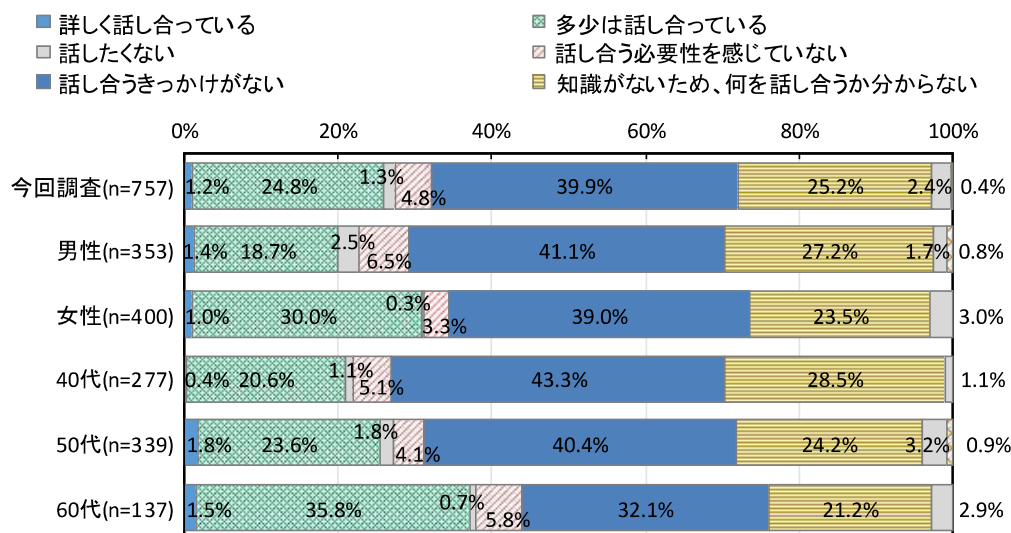


(5)あなたが人生の最終段階で受けたい、もしくは、受けたくない医療・ケアについて、ご家族等や医療・介護従事者と話し合っていますか。(1つを選択)

全体では、「話し合うきっかけがない」39.9%が最も高く、次いで「知識がないため、何を話し合うか分からない」25.2%、「多少は話し合っている」24.8%となっている。『話し合っている』（「詳しく話し合っている」＋「多少は話し合っている」）の割合は26.0%を占める。

男女別でみると、『話し合っている』の割合は男性20.1%、女性31.0%と女性が10.9ポイント高くなっている。

年代別でみると、『話し合っている』の割合は年代が上がるにつれて高くなっており、60代では35.8%となっている。

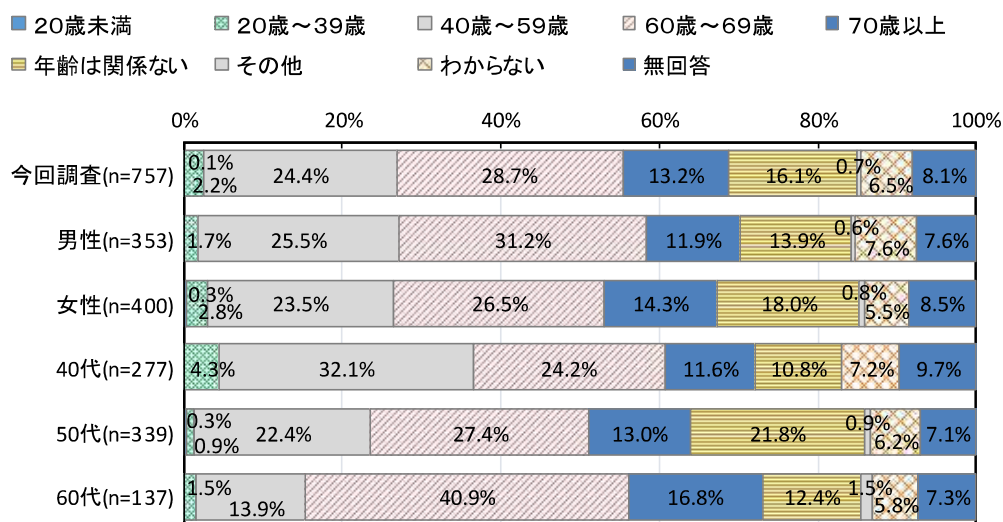


(6)ご家族等や医療・介護従事者と医療・ケアについて話し合う時期があるとする、いつ頃が良い年齢だと思いますか。
(5)で「1. 詳しく話し合っている」「2. 多少は話し合っている」と回答した方は、いつ頃でしたか。(1つを選択)

全体では、「60歳～69歳」28.7%が最も高く、次いで「40歳～59歳」24.4%、「年齢は関係ない」16.1%となっている。

男女別でみると、大きな差異はみられない。

年代別でみると、40代では「40歳～59歳」、50代、60代ではいずれも「60歳～69歳」の割合が最も高く、60代では40.9%となっている。



IV 調査結果【在宅生活改善調査】

【事業所票】

問1 貴事業所に所属するケアマネジャーの人数、及び利用者数について、御記入ください。

市内を拠点とする居宅介護支援サービスを展開する30事業所の状況を確認したところ、99人のケアマネジャーが活躍しています。また、居宅介護支援サービスの利用者は2,348人で、そのうち、「自宅等」にお住いの利用者が2,225人（94.8%）、「サービス付き高齢者住宅」及び「住宅型有料老人ホーム」及び「軽費老人ホーム」にお住まいの方が123人（5.2%）となっています。

単位：人・％

所属するケアマネジャーの人数	99
「自宅等（「サ高住」・「住宅型有料」・「軽費老人ホーム」を除く）」にお住いの利用者数	2,225(94.8)
「サ高住」・「住宅型有料」・「軽費老人ホーム」にお住いの利用者数	123(5.2)

問2 貴事業所において、過去1年の間に「自宅等(サ高住・住宅型有料・軽費老人ホームを除く。)から、居場所を変更した要介護度別の利用者数」と「自宅等で死亡した利用者数」を御記入ください。

過去1年間に居所変更した利用者は362人で、利用者総数（2,348人）の15.4%を占めています。
居所変更した利用者を要介護度別でみると、「要介護2」の方が84人（23.2%）と最も多く、次いで「要介護1」の方が82人（22.7%）となっており、「要介護1」と「要介護2」を合わせると全体の約5割となっています。

要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	申請中・不明	合計
4人	13人	82人	84人	71人	58人	45人	5人	362人
1.1%	3.6%	22.7%	23.2%	19.6%	16.0%	12.4%	1.4%	-

問3 貴事業所において、過去1年間の間に「自宅等(サ高住・住宅型有料・軽費老人ホームを除く。) から、居場所を変更した利用者数」を行先別に御記入ください。

過去1年の間に居所変更された利用者の行き先では、「病院・診療所(※一時的な入院を除く。)」が85人(15.4%)と最も多く、次いで「介護老人保健施設」が56人(10.1%)となっています。また、搬送先や行き先で亡くなられた方は192人(34.7%)となっています。

単位：人・％

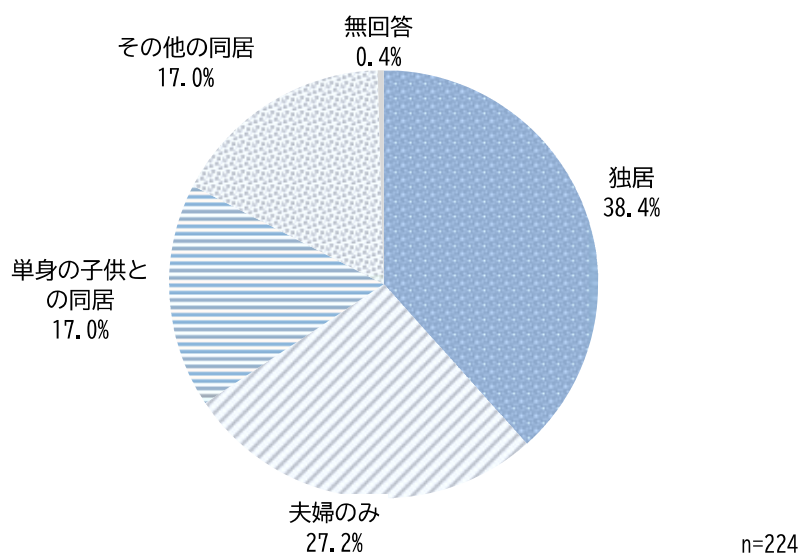
項目	市内	市外	合計	
	人数	人数	人数	割合
兄弟・子ども・親戚等の家	1	8	9	1.6
住宅型有料老人ホーム	17	28	45	8.1
軽費老人ホーム(特定施設除く)	0	1	1	0.2
サービス付き高齢者向け住宅(特定施設除く)	9	19	28	5.1
グループホーム	16	1	17	3.1
特定施設	18	26	44	8.0
地域密着型特定施設	0	0	0	0.0
介護老人保健施設	47	9	56	10.1
介護医療院	0	1	1	0.2
特別養護老人ホーム	39	16	55	9.9
地域密着型特別養護老人ホーム	1	0	1	0.2
病院・診療所(※一時的な入院を除く)	48	37	85	15.4
その他	4	4	8	1.4
行先を把握していない	-		11	2.0
自宅等での死亡(※搬送先での死亡を含む)	-		192	34.7
合計	200	150	553	-

【利用者票】

問1 対象となる利用者の状況等

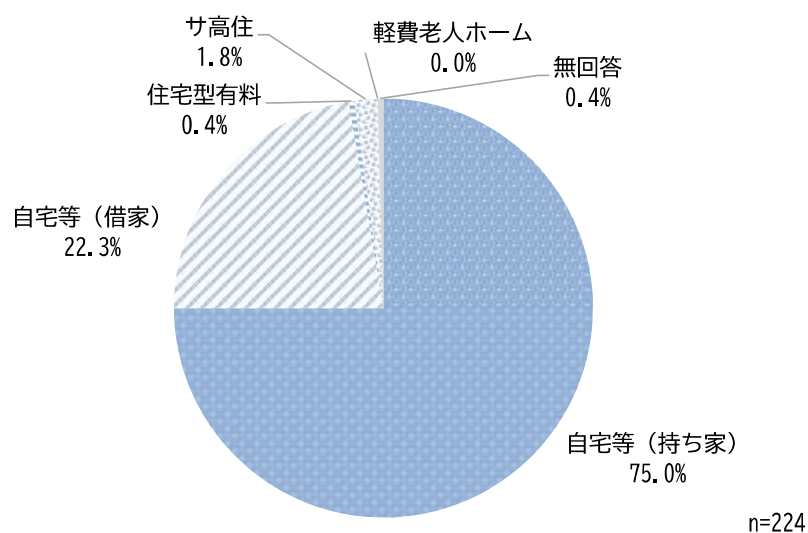
(1) 世帯類型

世帯類型では、「独居」が 38.4%と最も高く、次いで「夫婦のみ」が 27.2%、「単身の子供との同居」「その他の同居」が 17.0%となっています。



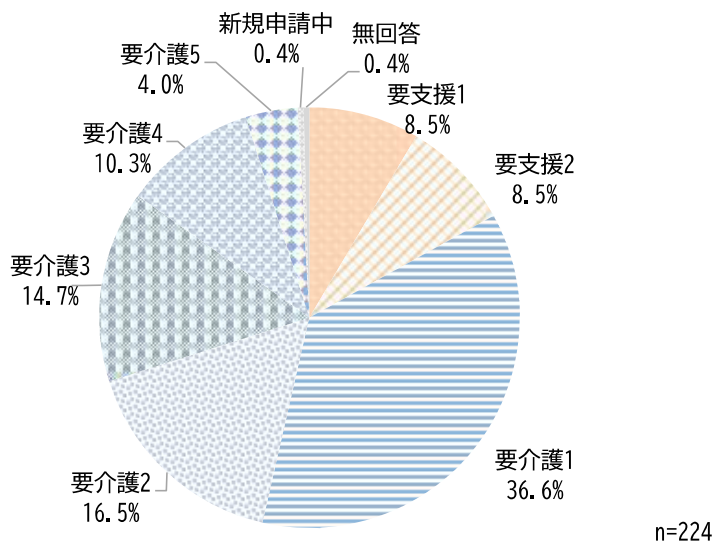
(2) 現在の居所

現在の居所では、「自宅等（持ち家）」が 75.0%と最も高く、次いで「自宅等（借家）」が 22.3%、「サ高住」が 1.8%となっています。



(3) 要支援・要介護度

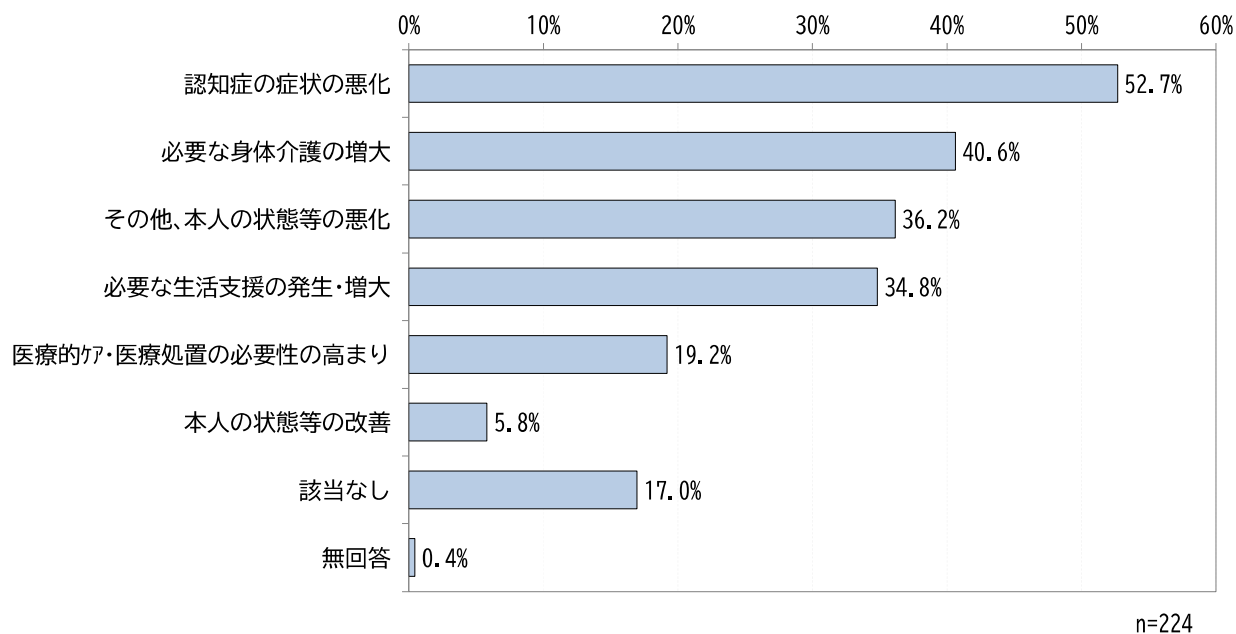
要支援・要介護度では、「要介護1」が36.6%と最も高く、次いで「要介護2」が16.5%、「要介護3」が14.7%となっています。



問2 現在のサービス利用では、生活の維持が難しくなっている理由

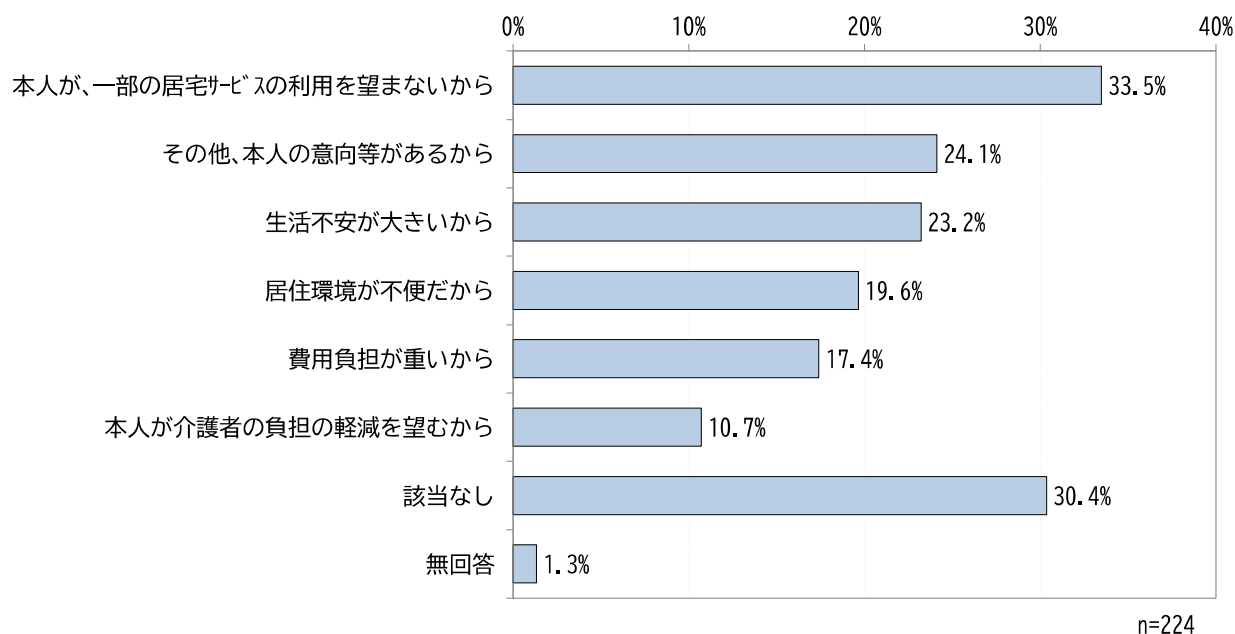
(1) 本人の状態等に属する理由

本人の状態等に属する理由では、「認知症の症状の悪化」が52.7%と最も高く、次いで「必要な身体介護の増大」が40.6%、「その他、本人の状態等の悪化」が36.2%となっています。



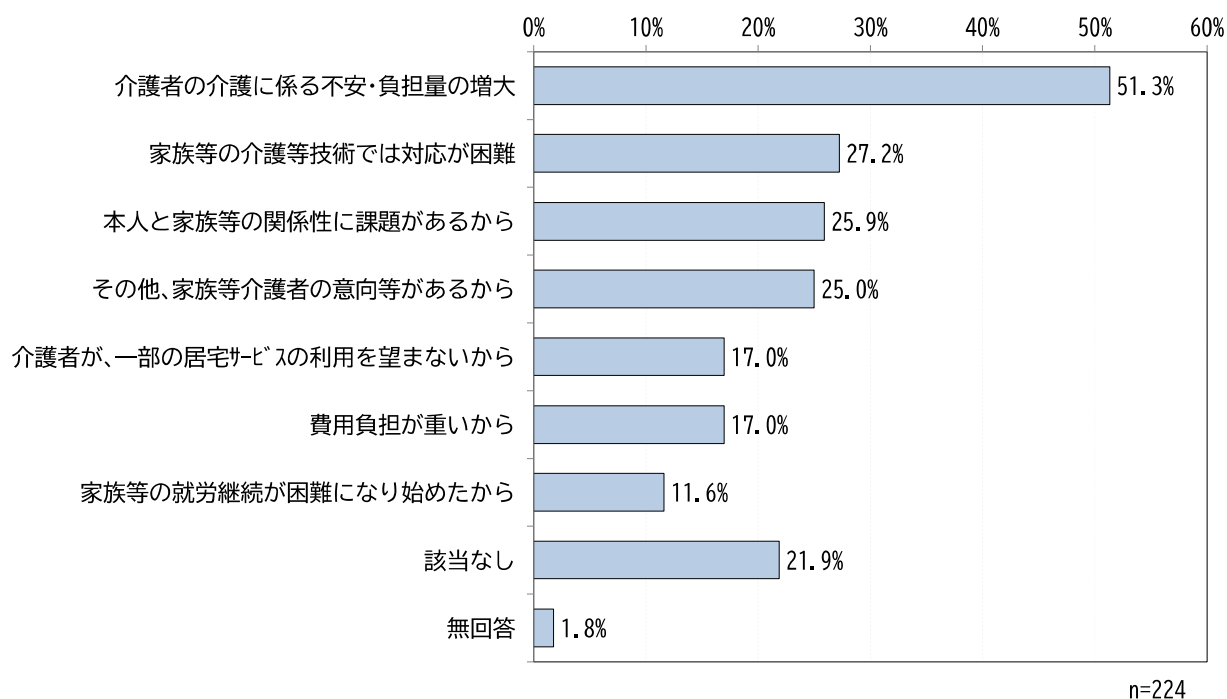
(2) 主に本人の意向等に属する理由

主に本人の意向等に属する理由では、「本人が、一部の居宅サービスの利用を望まないから」が33.5%と最も高く、次いで「該当なし」が30.4%、「その他、本人の意向等があるから」が24.1%となっています。



(3) 主に家族等介護者の意向・負担等に属する理由

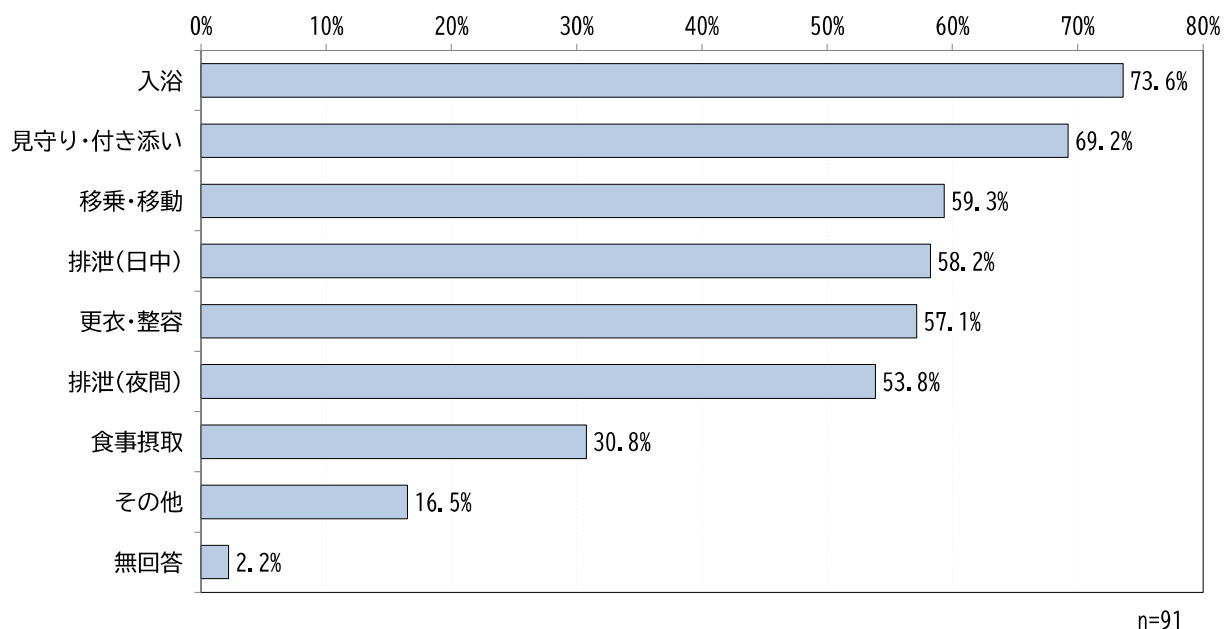
主に家族等介護者の意向・負担等に属する理由では、「介護者の介護に係る不安・負担量の増大」が51.3%と最も高く、次いで「家族等の介護等技術では対応が困難」が27.2%、「本人と家族等の関係性に課題があるから」が25.9%となっています。



【問2(1)で「必要な身体介護の増大」を選択の場合】

(4) 理由となる、具体的な「身体介護」

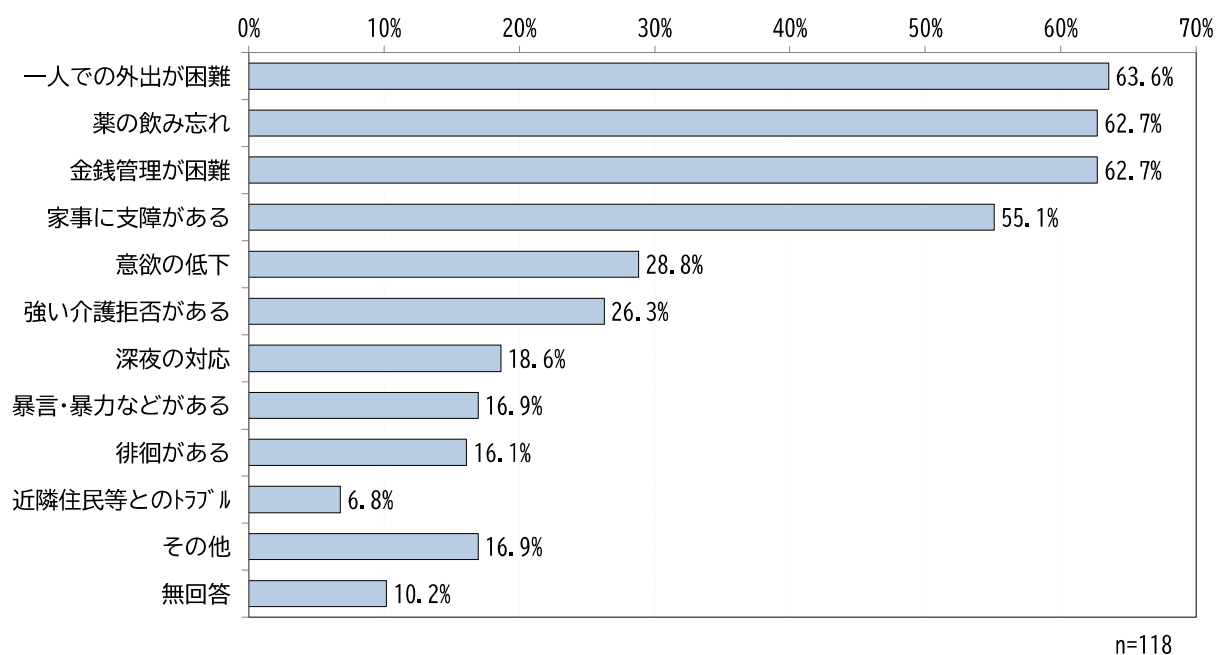
具体的な身体介護では、「入浴」が73.6%と最も高く、次いで「見守り・付き添い」が69.2%、「移乗・移動」が59.3%となっています。



【問2(1)で「認知症の症状の悪化」を選択の場合】

(5) 理由となる、具体的な「認知症の症状」

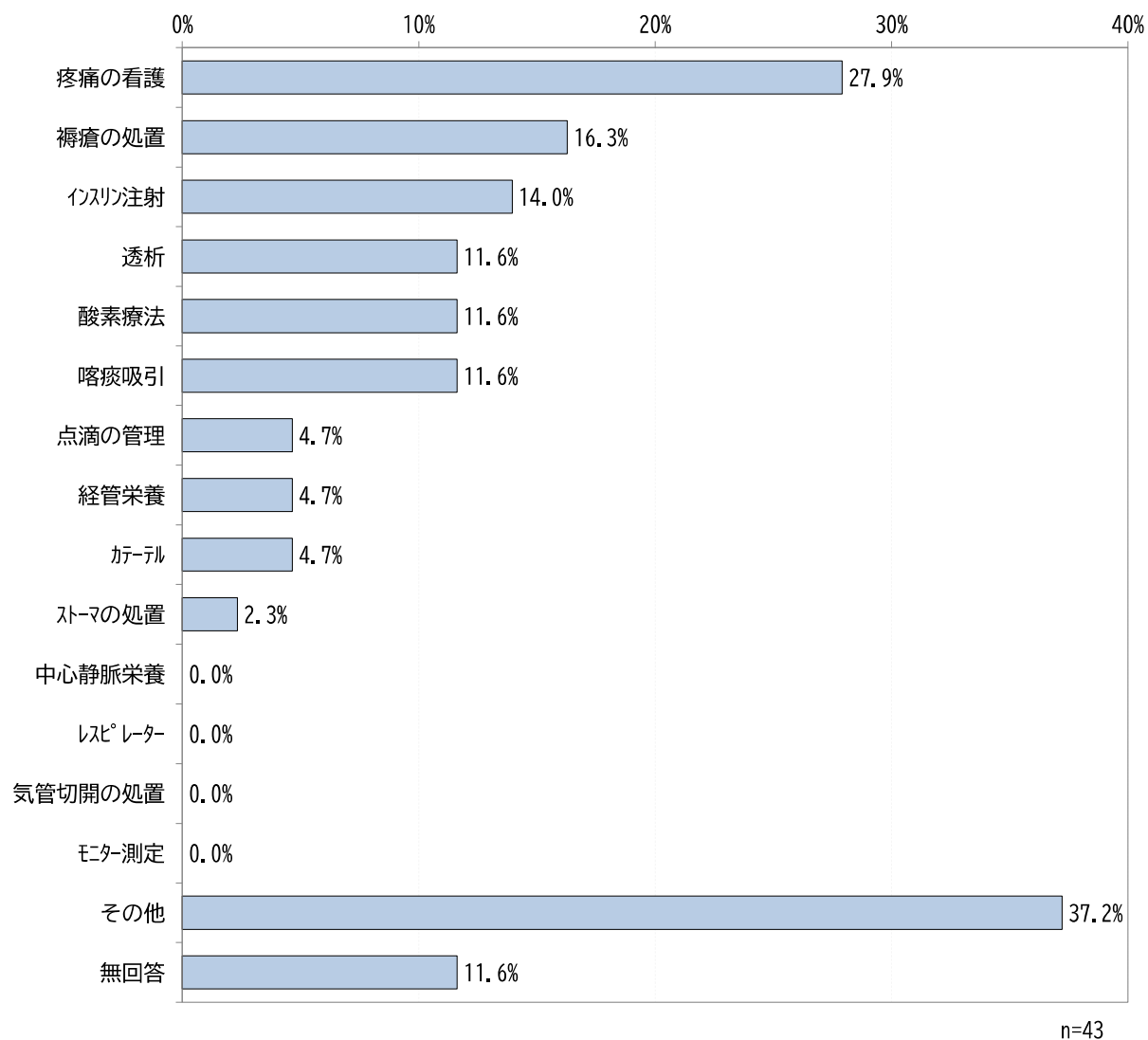
具体的な認知症の症状では、「一人での外出が困難」が63.6%と最も高く、次いで「薬の飲み忘れ」「金銭管理が困難」が62.7%、「家事に支障がある」が55.1%となっています。



【問2(1)で「医療的ケア・医療処置の必要性の高まり」を選択の場合】

(6) 理由となる、具体的な「医療的ケア」、「医療処置」

具体的な医療的ケア、医療処置では、「その他」が37.2%と最も高く、次いで「疼痛の看護」が27.9%、「褥瘡の処置」が16.3%となっています。



問3 「現在のサービス利用では、生活の維持が難しくなっている」状況を改善するためのサービス利用の変更等

(1) どのようなサービスに変更することで改善できると思うか

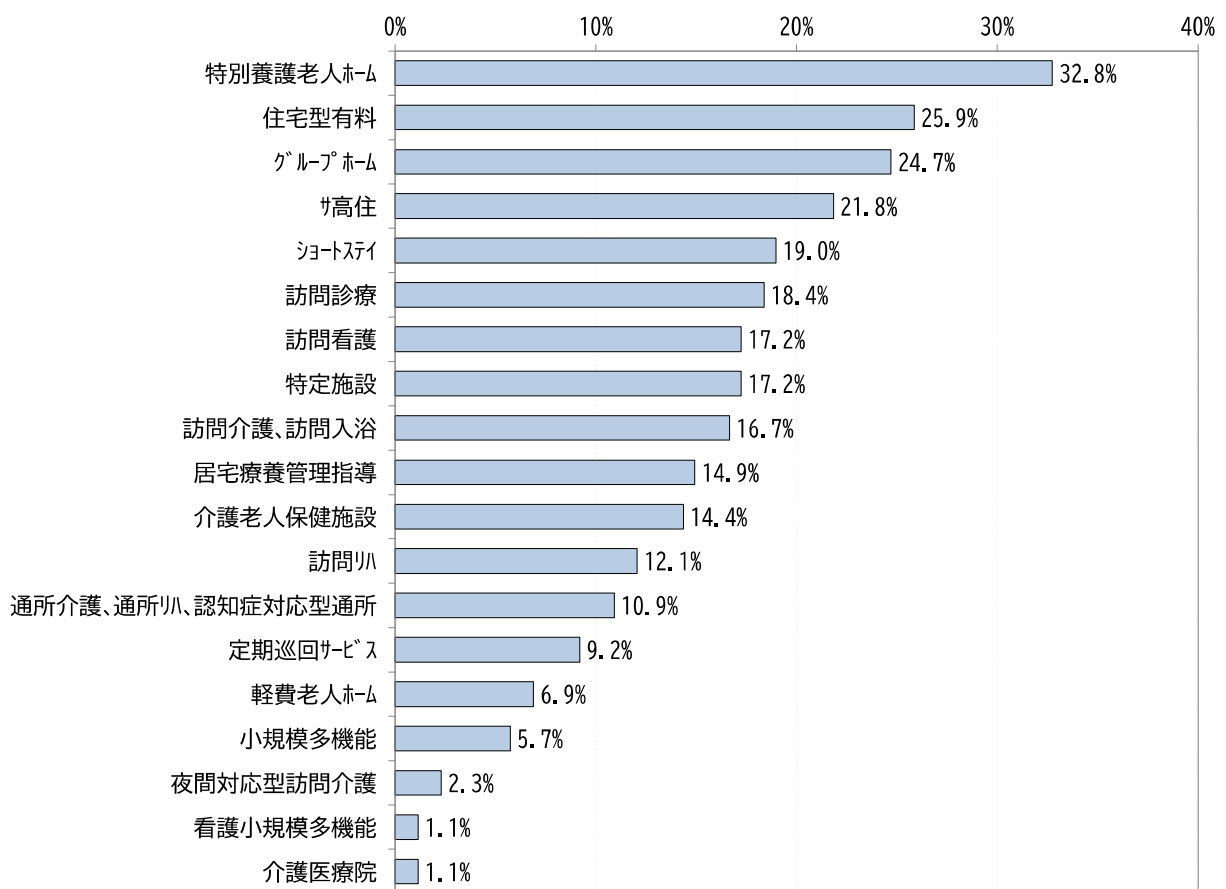
どのようなサービス変更が改善につながるかでは、「より適切な「住まい・施設等」に変更する」が55.9%と最も高く、次いで「より適切な「在宅サービス」もしくは「住まい・施設等」に変更する」が22.0%、「より適切な「在宅サービス」に変更する」が15.6%となっています。

単位：人・%

項目	人数	割合
より適切な「在宅サービス」に変更する	29	15.6
より適切な「住まい・施設等」に変更する	104	55.9
より適切な「在宅サービス」もしくは「住まい・施設等」に変更する	41	22.0
上記では改善は難しいと思う	12	6.5

(2) 問3(1)で選択したサービス利用の変更について、本来であればより適切と思われる具体的なサービス

適切と思われる具体的なサービスでは、「特別養護老人ホーム」が32.8%と最も高く、次いで「住宅型有料」が25.9%、「グループホーム」が24.7%となっています。

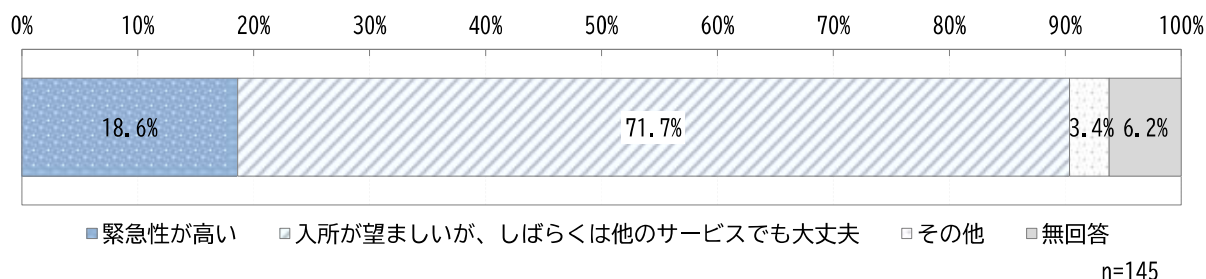


n=174

【問3(2)で「住まい・施設等」を選択の場合】

(3) 利用者の入所・入居の緊急度

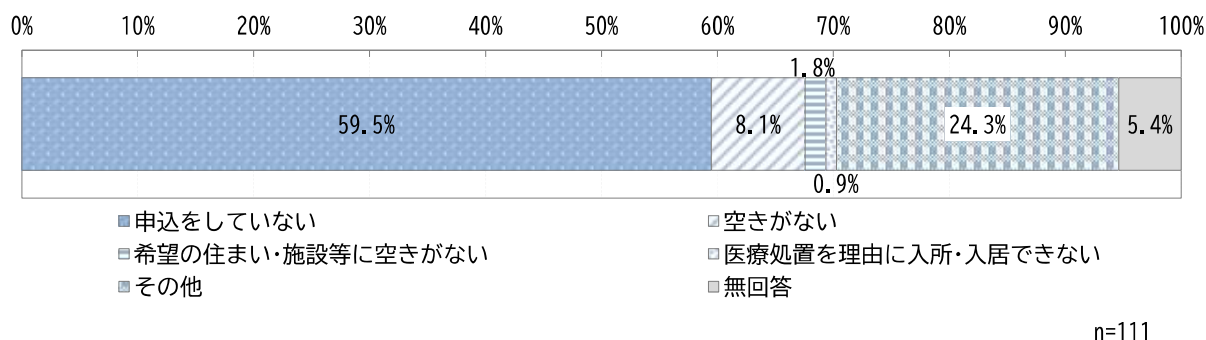
「住まい・施設等」へのサービス変更の緊急度では、「入所が望ましいが、しばらくは他のサービスでも大丈夫」が71.7%と最も高く、次いで「緊急性が高い」が18.6%、「その他」が3.4%となっています。



【問3(2)で「住まい・施設等」(※特別養護老人ホーム以外)を選択の場合】

(4) 入所・入居できていない理由

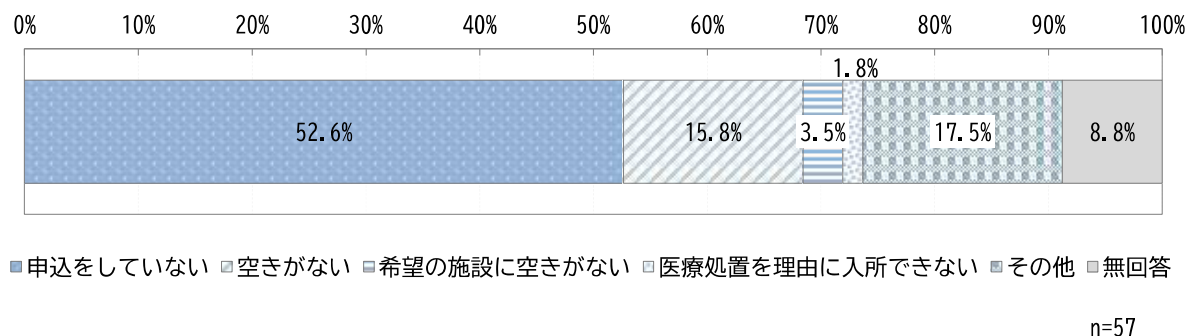
特養を除く「住まい・施設等」へ入所・入居できていない理由では、「申込をしていない」が59.5%と最も高く、次いで「その他」が24.3%、「空きがない」が8.1%となっています。



【問3(2)で「特別養護老人ホーム」を選択の場合】

(5) 特養に入所できていない理由

特養を除く「住まい・施設等」へ入所・入居できていない理由では、「申込をしていない」が52.6%と最も高く、次いで「その他」が17.5%、「空きがない」が15.8%となっています。



V 調査結果【居所変更実態調査】

問1 該当するサービス種別

回答した事業所のサービス種別は、「特定施設」が8事業所（26.7%）と最も多くなっています。

単位：事業所・%

サービス種別	事業所数	割合
住宅型有料老人ホーム	5	16.7
軽費老人ホーム（特定施設除く）	0	0.0
サービス付き高齢者向け住宅（特定施設除く）	3	10.0
グループホーム	5	16.7
特定施設	8	26.7
地域密着型特定施設	0	0.0
介護老人保健施設	3	10.0
介護医療院	0	0.0
特別養護老人ホーム	5	16.7
地域密着型特別養護老人ホーム	1	3.3
合計	30	-

問2 貴施設等の概要

回答した事業所には、1,570 人の方が入所・入居しており、30 事業所の定員数に対する入居者数は 92.4%となっています。その一方で、491 人の方が待機者となっています。また、特別養護老人ホーム以外の施設から特別養護老人ホームへの待機者数（申込者数）は 10 人となっています。

単位：人

定員数など	1,530 人・76 戸・92 室/計 1,700
入所・入居者数	1,570
（貴施設等の）待機者数	491
特別養護老人ホームの待機者数（申込者数）	10

注）定員数は1戸＝1名、1室＝1名として算定しています。